

市三函館博物館

研究紀要

第 6 号

1996

市三函館博物館

研 究 紀 要

第 6 号

1996

序

ここに『市立函館博物館研究紀要』第6号を刊行いたします。

当館は明治12年に開設された開拓使函館仮博物場をはじめりとしており、地方博物館としては北海道はいうにおよばず、日本における最も長い歴史を有しております。戦後の昭和23年には市立函館博物館として再出発をしましたが、博物館機能の根幹ともいべき調査・研究を発表する場を欠いたまま時間が経過してまいりました。幸い平成2年から本紀要が刊行されることになり、次々と研究成果が報告されていますが、表現する場を得て館の活動が一躍活発なものとなったことはいうまでもありません。

今回の号では、まず函館市教育委員会社会教育部文化財課佐藤智雄氏および同課調査員五十嵐貴久氏の共著となる「能登川コレクションの骨角器について」と題する論文を掲載しました。当館に所属する考古資料は戦前から引き継がれたいわゆる「旧蔵資料」と称されるものや戦後に当館が実施した発掘調査資料のほか、数多くのコレクション類から構成されています。なかでも能登川コレクションは縄文期のものを数多く含み、高い関心を呼んでいます。本論文ではこれまでに必ずしも、その概要が明らかとされていなかった恵山貝塚の骨角器について新たな分析が試みられています。

ついで当館の霜村紀子学芸員による研究ノート「北海道商業美術家協会の活動について」を掲載しました。これまで美術史の分野ではあまり関心がもたれてこなかった商業美術に光を当てており、とりわけ戦前の商業美術家の動向を当時の新聞資料をもとに丹念に追っています。資料の背後に見えかくれする歴史を研究するなかからその多面性が浮彫りにされることでしょう。

この紀要は、館職員の日常の研究成果を発表する場であると共に、専門の立場から当館の目的に合致した研究にも門戸が開かれています。館資料・研究・人のネットワークが形成され、その集大成として館の今後の研究活動の糧となり、ひいては市民生活の文化的側面にも役立てればと念願しております。

おわりに本紀要の刊行にあたり、関係各位よりあたたかいご支援・ご協力をいただきましたことをこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

1996年3月31日

市立函館博物館長
菅原 繁昭

目 次

序

能登川コレクションの骨角器について

佐藤 智雄・五十嵐 貴久 1

研究ノート

北海道商業美術家協会の活動について

霜村 紀子 48

能登川コレクションの骨角器について

佐藤 智雄
五十嵐 貴久

能登川コレクションは、函館市に在住していた故能登川隆氏が、大正年間から昭和30年代にかけて収集していた考古学関係の資料で、氏の病没後、昭和33年（1958）4月、夫人から市立函館博物館に一括寄贈された。

コレクションの構成は、恵山町関係では、恵山貝塚出土資料（続縄文時代前期骨角器他）大潤出土資料（縄文時代晩期土器）古武井出土資料（縄文時代前期～晩期土器他）長木川出土資料（縄文時代後期土器）日ノ浜出土資料（縄文時代晩期土器土製品他）

函館市関係では函館市春日町一現青柳町一出土資料（縄文時代早期土器）、住吉町遺跡出土資料（縄文時代早期土器他）がある。

他に、椴法華村椴法華出土資料（縄文時代早期末葉『トドホッケ式土器』）などがあり、この資料は、昭和43年に道指定文化財となっている。

中でも恵山貝塚出土の骨角器は続縄文時代前期を代表する遺物として高い評価があり、恵山文化期骨角器製品一括資料506点並びに恵山貝塚出土遺物を中心とする恵山式土器一括資料62点は、昭和37年市指定有形文化財となっている。なお、上記資料の他に、氏が資料を採取した際の記録が手記として残されている。

本稿では、これら多くの資料の中、続縄文時代前期を代表する恵山貝塚出土の骨角器を取り上げ、観察を加え全容を明らかにすることを目的としている。ただ今回取り扱った資料については、すべてが続縄文期とは断言し

がたいものも含まれていることを予めご承知願いたい。

漁撈具・銚頭(1～39)

茎孔式単尾銚頭(1～4) 1は恵山貝塚出土資料を代表する銚頭。先端部は石銚を装着するために薄く削り取られ、外側は紐で石銚を固定するためくびれ状になる。体部腹面に断面半レンズ状の鐵が付く。尾部は大きく湾曲し、これによって全体的なプロポーションはやや「く」の字状を呈する。また、その端部には逆刺状の突起が付く。鋭利な金属器を使用したと思わせる刻線文と盲孔が全体的に施され、かつ背面から見たとき左右対称の文様になる。尾部と先端部を通る面に対して垂直に交わる方向に細長い索孔が設けられ、茎孔と繋がる。2も同様に石銚を装着する面を持ち、鐵状の突起と刻線文を持つ。3は先端部に石銚を装着する機能を持たないタイプだが、他の要素は1と同様。再加工品の可能性もある。4は尾部の破損品。全体は窮えないが、刻線文と逆刺状突起が付く。副葬品である。茎孔式双尾銚頭(5～24) 先端部片鐵タイプ(5～8) 5は体部側縁に片鐵を有し、尾部の片方を切断した痕跡を残す。全体的に削痕が多く、表裏両面から索孔が穿たれている。木村により単尾式銚頭に分類されたものだが、^{註(1)}氏の指摘通り再加工品の可能性が高いと思われる。6も同様に体部側縁に片鐵を有し、7では側縁部に交互に鐵が付く。また、6は意図的に先端部を切り落としている。8は焼成を受け

萎縮している。先端部は片鑢だが、再加工品の可能性がある。

先端部両鑢タイプ(9~16) 10は先端部に両側縁に開く鑢を有し、体部やや下寄りに表裏両面穿孔の索孔を持つもので、文様等はない。先端部に削痕を顕著に残すのが特徴的である。11~15もほぼ同様。9は体部に両鑢を1段持つもので、やや長大になる。16は側縁の両鑢と索孔の形状から本タイプに含める。

先端部無鑢タイプ(18) 18は先端部に鑢を持たず、索孔も体部のやや先寄りに位置する。先端部の削痕から再加工品の可能性を指摘できる。また、先端部の形状不明の資料で、19は先端部を切断した痕跡が明らかに残る。無鑢の銚頭の加工途中品の可能性も考えられる。挿入式銚頭(25~28) 25は扁平形で、側縁部に交互に鑢がつく。索孔は無く、両側縁に銚索連結用の抉りが入る。文様等はなく、全体的に面取りの加工痕が残るが、丁寧に仕上げている様子はない。26も同様。先端部欠損。27は先端部両鑢で体部にさらに両鑢を2段有する。刻線文が施され、体部の下寄りに表裏両面穿孔の索孔を持ち、この部分までであれば茎孔式と大差ない。基部は削痕が多数残る。28は先端部破損品だが、基部の形状・刻線文等同じ。また、両者とも朱彩が施されている。29は銚頭未製品。鯨骨製で先端部・両側縁に加工痕が残り、端部に切込みが入る。30~33は破損品と考えられるが、30は下端部に切断痕跡が明瞭に残るもので、意図的に切除した状況が窺える。34~39は切断痕跡が残る鹿角の角先か銚頭の先端部。37などは、周囲に多くの削痕を残している。すべてが銚頭とは限らないが、6・16・18等切断痕を留める資料もあわせて、銚頭の製作工程あるいは再加工の状況を窺わせる資料として提示したい。

漁撈具・釣針(40~111)

釣針には単式釣針、複式釣針がある。複式釣針は主軸・複軸・針先に分かれる。鹿角・獣骨を素材としているが、ほとんどが鹿角製である。

Aタイプ(40~43) 主軸の糸かけ部分に瘤状の作り出しがあり、孔又は、広めの索溝が1本ある。40・41は破損品であるが、破損部分に面取り様の加工があり、腰部の段を利用して針先が取り付くのかもかもしれない。

Bタイプ(44) 全容を知りうる資料がなかったために、念のため区別した。Aタイプとは腰部部分の作製方法が異なっている。

Cタイプ 図化しなかったが、表C-1-72~74・76・77が該当する。鹿角製の大型複式釣針の主軸を一括した。Eタイプの針先結合部分の再利用品あるいは材料かもしれない。

Dタイプ(45~58・69~91) 複式釣針の中主軸(49~51・69~75・82・83)、複軸(45~48)と破損品を一括した。49~54・57・58が完形である。主軸頭部の糸かけは、厚さ2mm程度で瘤状につくられ、結合部は針先との合わせに斜めの面が取られ糸かけ様の瘤か、ごく細い溝が2~3本つけられている。72は、銚頭の転用品で鑢部を針先の合わせ面に作り変えている。複軸は、両端に糸かけ様の瘤か2~3本の溝が切られ、同じ側に針先との結合面が作られている。

Eタイプ(59・61・63~68) 複式釣針主軸のうち、海獣肋骨製でL字型を呈するものを一括した。素材によって腰部の角度は異なるが、直角に近いものが多くみられる。頭部の糸かけは68を除き、瘤状に作り出されている。針との結合部分は、内側が面取りされホゾ穴様の溝が掘られている。68の頭部には両側からの穿孔がある。他に結合部分に溝のあるものが1例、側面に半円状の凹みのあるものが1例ある。結合部分の破損が多い。

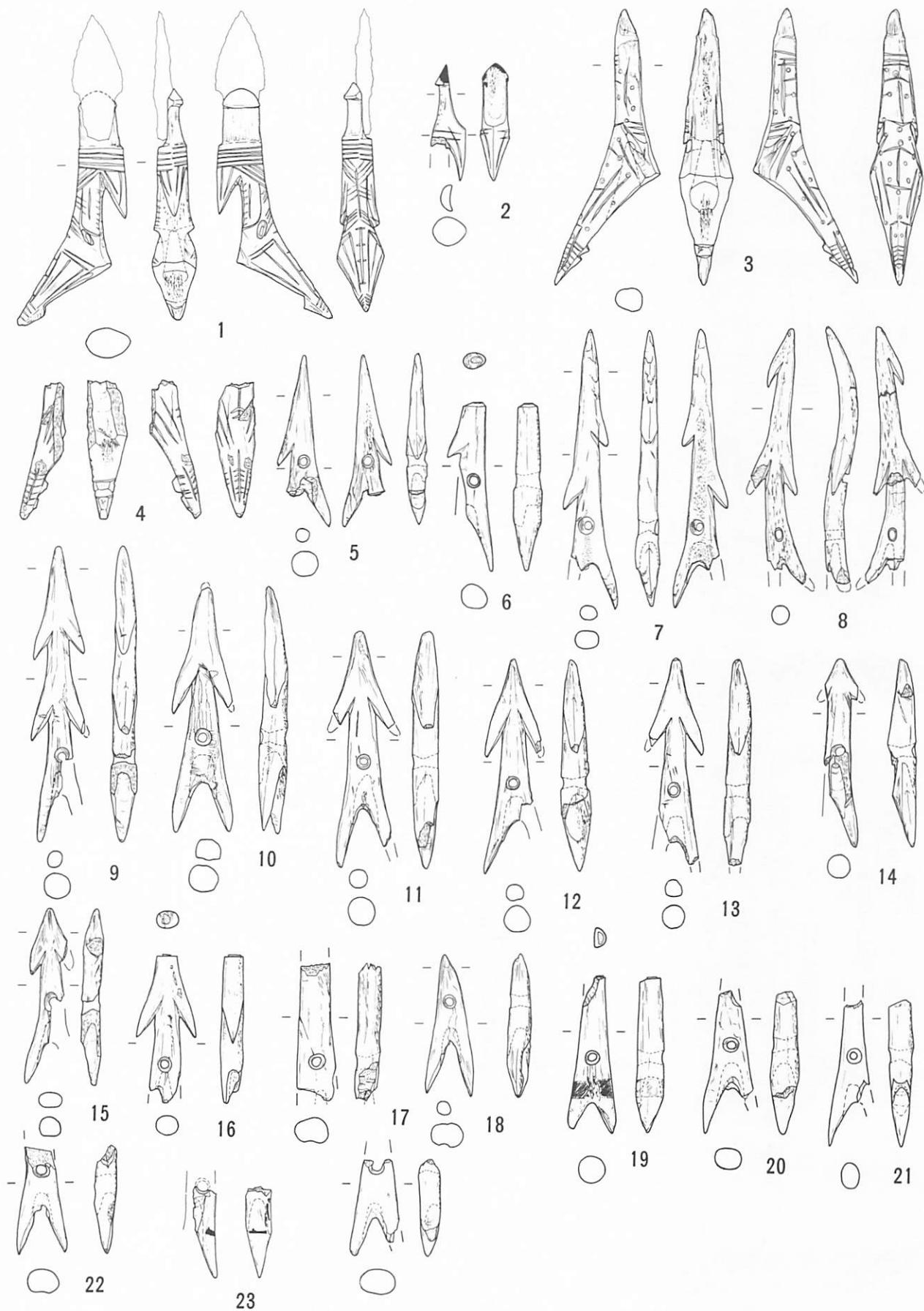


図1 銚頭 $S = \frac{1}{2}$

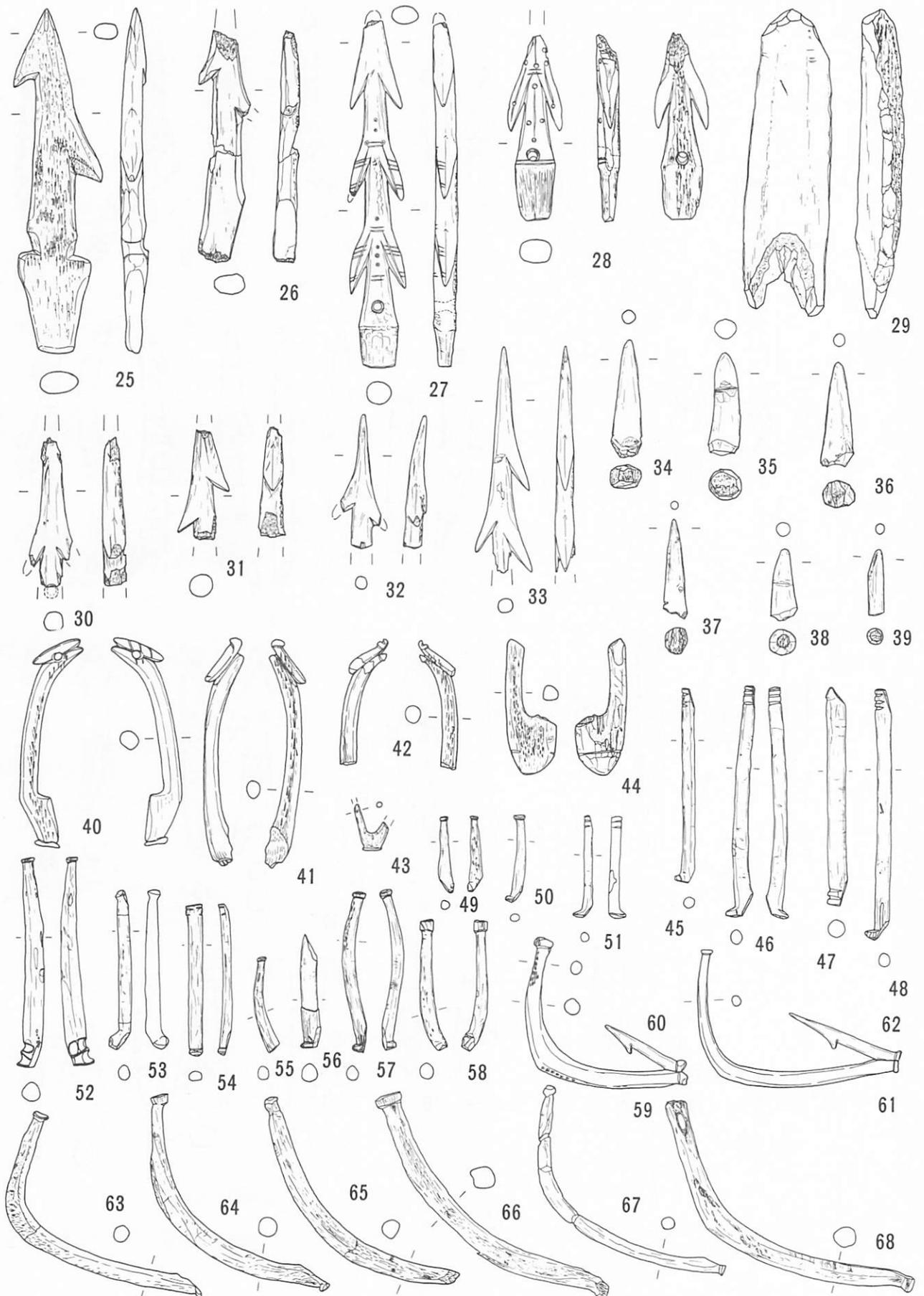


図2 鈎頭・釣針 S = 1/2

Fタイプ(92~111) 複式釣針の針先を一括した。鹿角製のものは棒状で、獣骨製のものは板状を呈する。針先先端には93を除き逆刺があり、軸部との結合部は、例外なく斜めに面取りしてある。逆刺は、片逆刺(94~97・99~103・105~107・109・111)・両逆刺(104・108・110)・ひねり逆刺(92)・二段逆刺(98)があり、逆刺方向に面取りした結合部分がある。結合部分は2~3本の溝のあるものと、瘤のあるものがみられる。また、結合部分が段状に太くなるものもある(97・103)。漁の対象によって区別があるものとみられる。

生活用具・刺突具(112~188)

先の尖っている道具の中、特に先端部分を利用しているか、あるいは入念に加工の施されているもので、器種の特定できないものを刺突具とした。また、その中には魚骨の棘等の可能性があるものも含む。タイプは先端部の断面の形状が方形か円形かで分類し細分した。

Aタイプ(181~186) 先端部が丸く、長さの短いものを一括した。頭部はいずれもへら状に加工している。181~184は先端部が段状でドリルとして区別できる。

Bタイプ(119~136・155~158) 棒状の形態で、先端部の断面が丸いものと、やや楕円のものがある。素材は魚骨と鹿角がある。119はメカジキの吻端骨製。

Cタイプ(116・117・137~153) 先端部の断面が方形となるものと、薄く板状になるものを一括した。116・117は共に獣骨製。軸も太く先端部も鋭い。137~153は断面板状である。148~153は、側縁に使用痕がある。151は穿孔痕が残っている。

Dタイプ(187・188) マグロ類の棘と、鹿角を素材としている。断面カマボコ状で全体が湾曲している。187の先端部は特に薄く、ドラ

イバー状に入念に研ぎ出されている。大きさは違うが、形態はイヌイットの脂肪の掻き取りへらに似ている。

Eタイプ(159~180) 鳥骨製の刺突具を一括した。先端部は斜めに切り落とされた後に、研磨されている。近位部の骨端を残すものが多く、165から180の様に軸部が破損する。

Fタイプ(114・115) エゾシカ尺骨を素材としている。先端部分は細めの竹べら様であるが、断面が方形で側縁に使用痕がみられないので刺突具とした。115は全面に加工痕があり、先端は表面の剝落している。使用痕であろうか。

Gタイプ(112・113) イルカ類下顎骨を利用している。112の先端は断面方形で、113は先端部と両側縁を両側から薄く研ぎ出している。

Hタイプ(118・154・192・195) 組合せヤスと思われる。118は鯨骨製。装着部内面に面取り加工があり、外面には固定のための瘤が2段ある。192は片側に面取りがしてあり、195は内面に装着用とみられる溝がある。リタッチャーの可能性もある。

生活用具・へら(189~191・193・194・196~218)

先端および側面が扁平に加工された道具の中、刃部の幅が広いものをへらとした。素材あるいは用途によるとみられるが、断面がカマボコ状となるもの、板状となるものがある。握り部分あるいは全側縁を丁寧に加工しているもの、全体が板状で側縁を中心に刃部がつくられ、鋸歯状の刃部を持つナイフ状の加工品もみられる。

Aタイプ(189・190) 獣骨製で、長軸の先端に使用痕がある。素材も肉厚で、断面は板状である。

Bタイプ(196~209) 鳥骨を短冊状に割ったものを一括した。先端部はやや丸みを帯びるが、側縁と先端に使用痕がある。196~199の

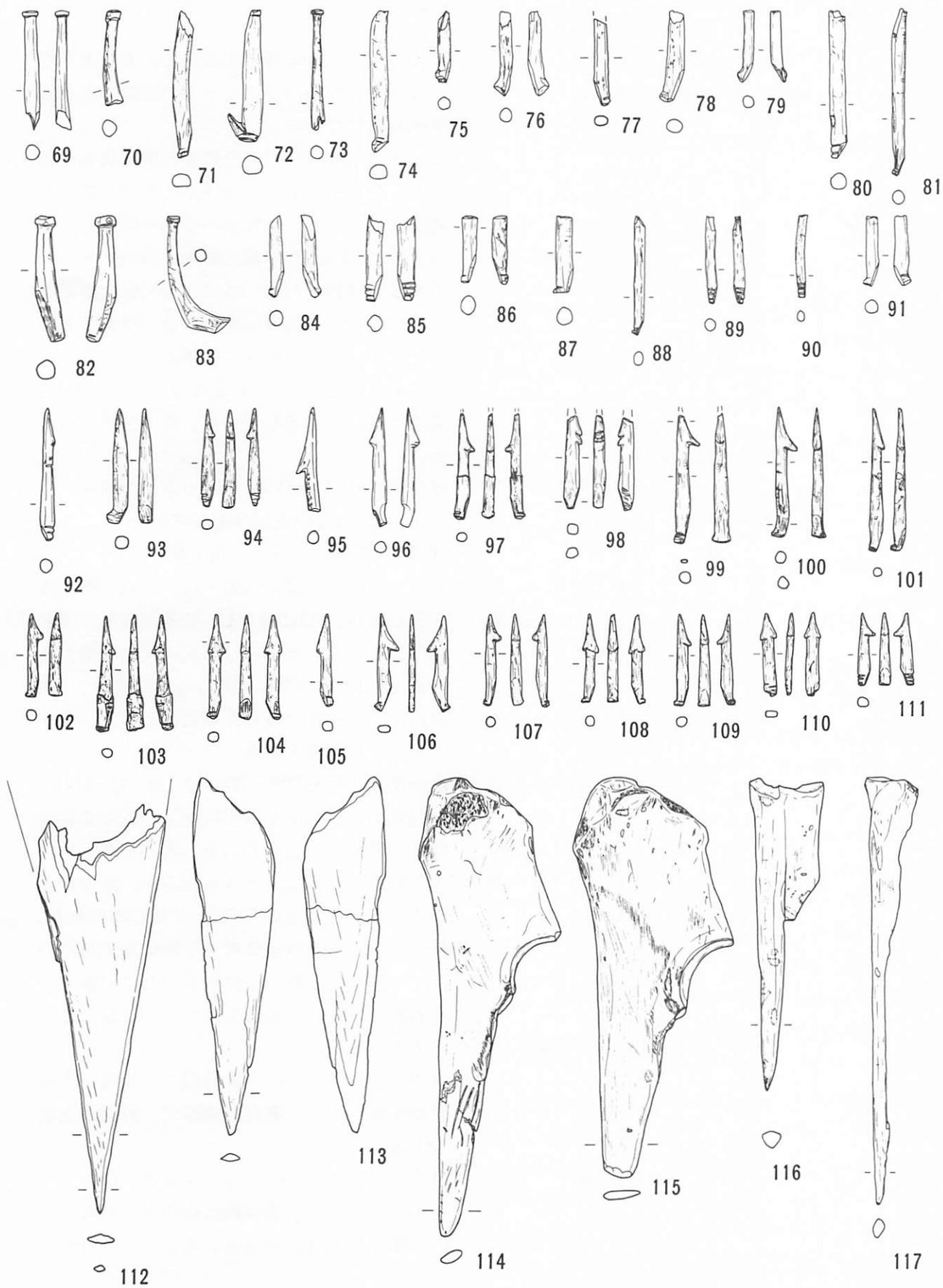


図3 釣針・刺突具 S = 1/2

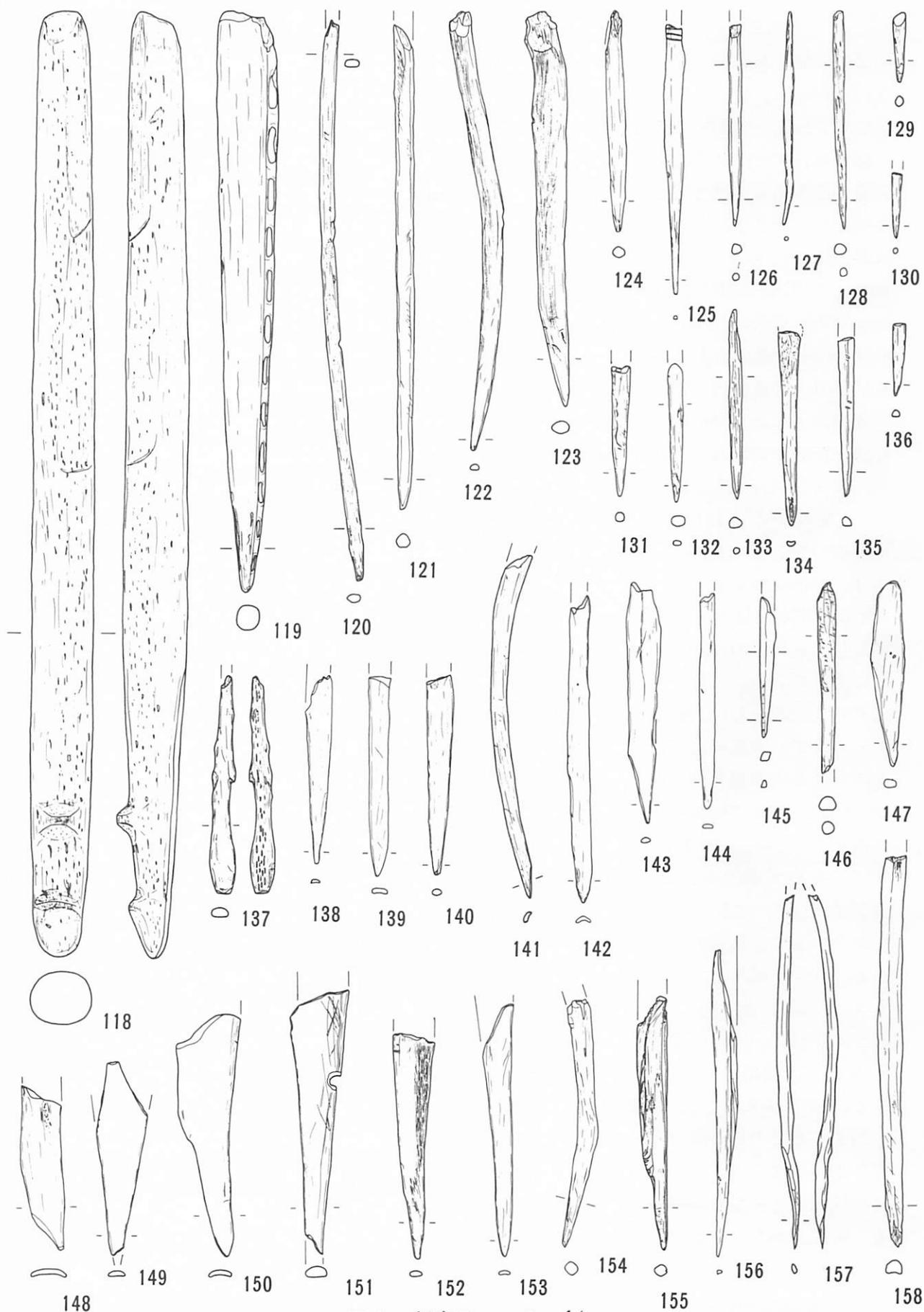


図4 刺突具 S = 1/2

側縁には鋸歯状の刻みが入り、研ぎ出しに伴う擦痕がある。ナイフであろうか。

Cタイプ(210~213) ごく薄い板状の製品を一括した。すべて陸獣骨製である。210・211が完形品である。緻密質部分だけで、厚さは1mmない。研ぎ出したものとみられるが用途はわからない。

Dタイプ(214~218) 厚さが2mm程度で、幅10mm程の短冊状に加工したものを一括した。海獣の肋骨製とみられる。214・215が完形品。

生活用具・骨針(219~259)

先端が尖ったものの中、器体が全体に細く、形状や断面形が均質なものを骨針とした。鹿角・獣骨・鳥骨の他、わずかであるが魚骨を素材としている。加工は全面におよび全体を丁寧に研磨している。長さが100mmを越えるものは、軸部中央が太くなる傾向にある。破損品には一部刺突具と区別しにくいものもある。糸通しの孔や溝のある側を頭部とし、その形状によってA~Dに分けた。

Aタイプ(226~231) 頭部に糸通し用の孔があるもので、孔周辺に刻線による飾りのつくもの。孔から頭部先端にかけて平行・矢羽根状・渦状にごく細かい刻線が施されている。孔は両側からの穿孔で、眼状である。231はCタイプであるが、飾りがあるので本群で扱った。Bタイプ(219~225) 頭部に孔があり飾りのつかないもの。先端部につぶれ等の使用痕がある。孔側が破損しているものもある。孔はAタイプ同様に眼状。

Cタイプ(240~258) 頭部に溝のつけられるもので、大(240)・小(241~258)に区別できる。このうち小は、鳥骨を細く短冊状に切って加工したもので断面方形となる。幅2mm、厚さ1mm前後と、細くごく薄く短い。251・252は例外的に溝をつくらず頭部を面取りしている。未製品かもしれない。

Dタイプ(233~239・259) 全体の形状から骨針として区別したが、糸を導くための加工がわからないものを一括した。233と259は頭部がへら状に加工されている。

生活用具・ヘアピン(270~276)

頭部に刻線等による飾りがあり、器体が全体に細く均質に整形され、先端部が丸く加工されているものをヘアピンとした。獣骨・鳥骨を素材としている。完形品は270のみである。頭部の飾りはごく細かい刻線で、実線あるいは破線状の平行線(271・272)あるいは矢羽根状(270)・たすき状(273)の文様が施されている。272は、刻線部分に朱彩している。275・276は柄部分。入念に加工しているが、刺突具かもしれない。

生活用具・針ケース(278~291)

鳥骨をほぼ一定の長さで輪切りにしたもので、内部は空洞、両切断面が面取りまたは使用によって摩滅しているものを針ケースとして分類した。大きさと文様の有無から3タイプに分けられる。

Aタイプ(278・279) 小型で刻線による飾りのあるもの。278は40mm程の長さで、両端にそれぞれ1本、2本、中央部に3本の平行線による刻線が施されている。279は、頭部に平行線と斜線による刻みがある。両切断面ともよく摩滅している。

Bタイプ(280~285) 小型で飾りのないものを一括した。50~60mm前後の長さで、3~4mmほどの内径がある。図化しなかったが、骨端のついた未製品もある。

Cタイプ(286~291) 大型で、80~100mmある。290は、両端と中央に2本一組の刻線がある。291は切断面がよく摩滅している。使用痕の少ないものは副葬品かもしれない。

生活用具・スプーン(260~263・265~269)

匙部分のあるものをスプーンとした。262・

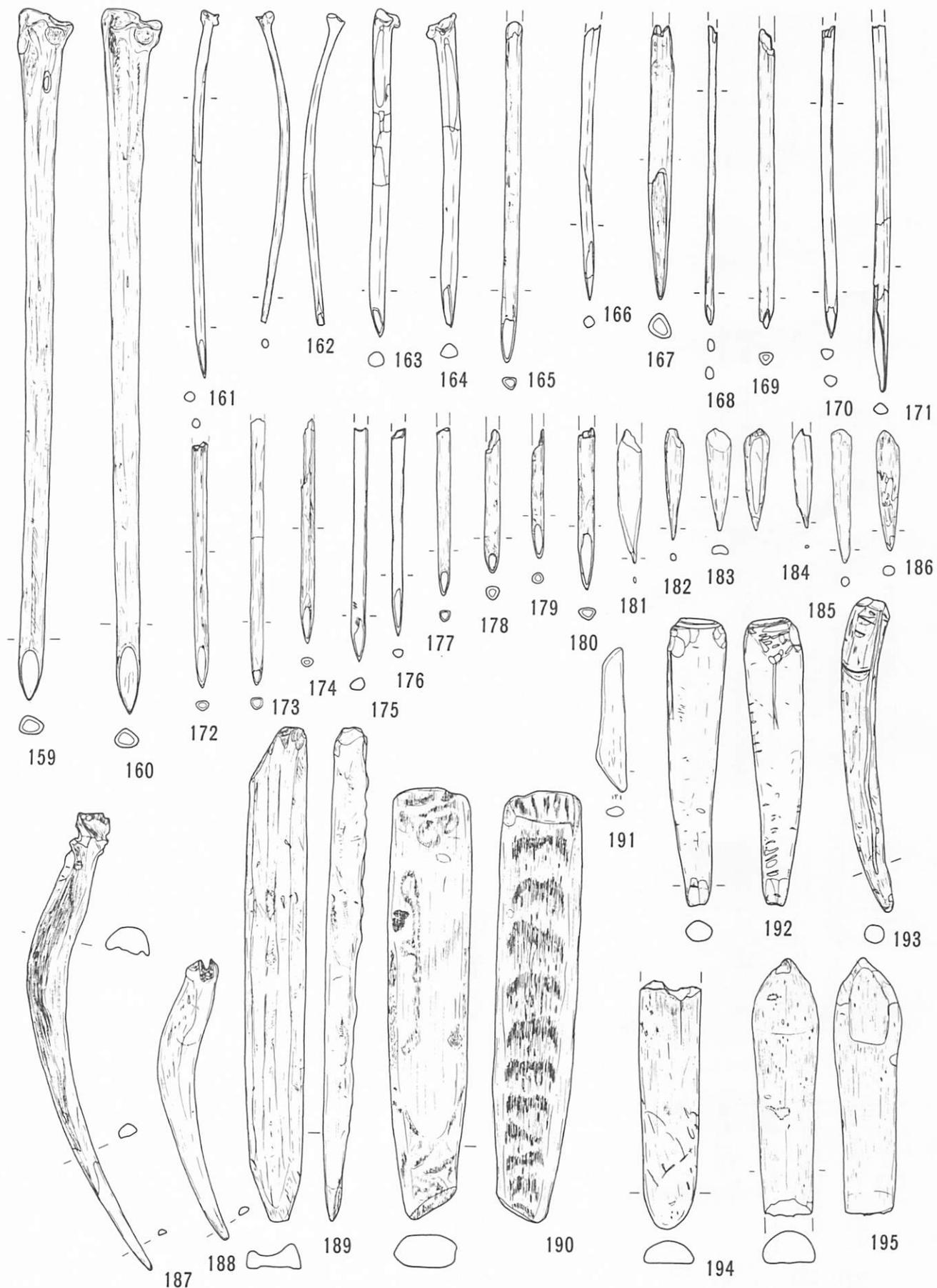


図5 刺突具・へら $S = \frac{1}{2}$

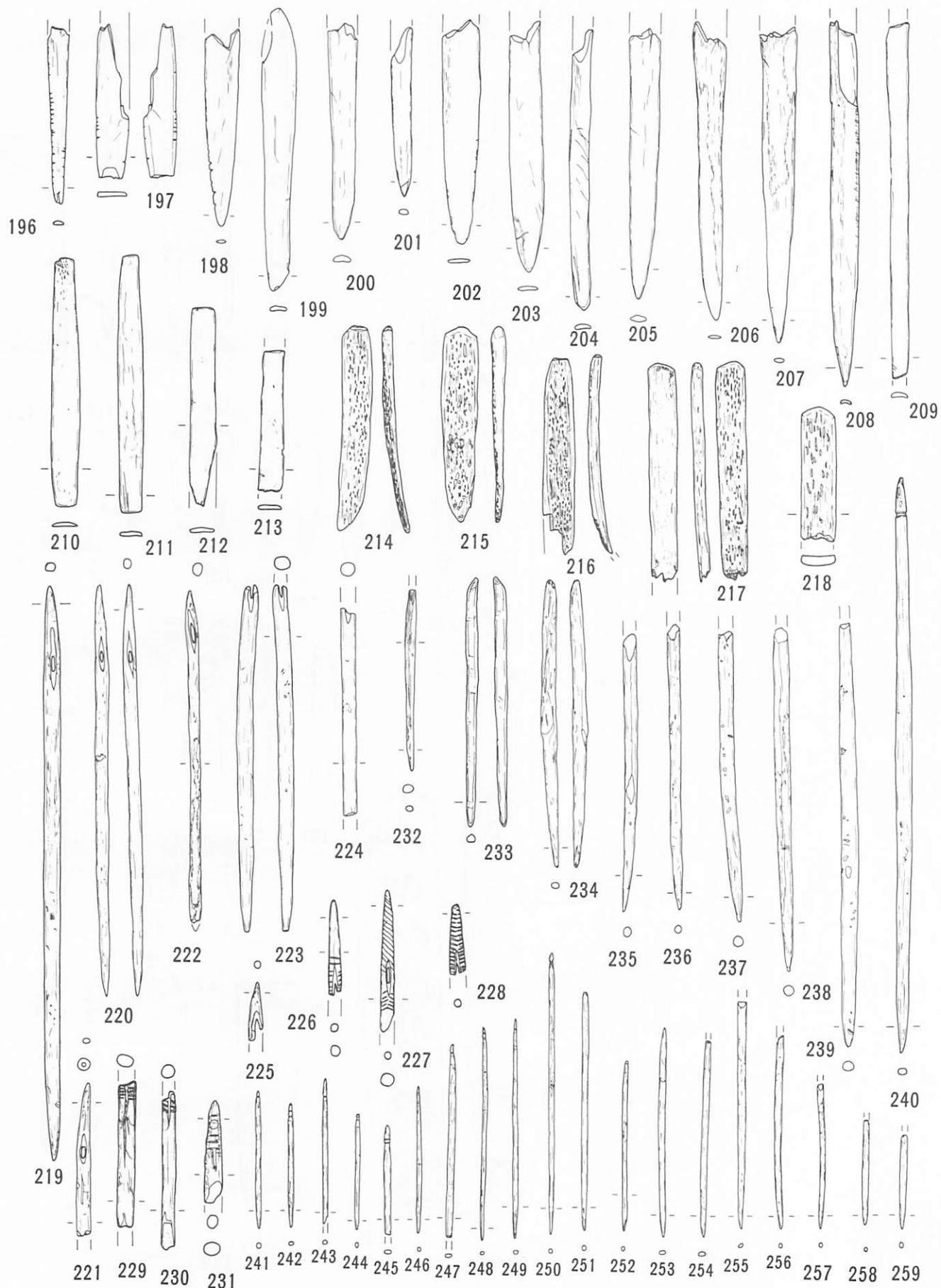


図6 へら・骨針 S=1/2

263はヘアーピンの可能性がある。

Aタイプ(260～263・269) 動物彫刻のついた本コレクション中最も著名な一群である。刻線と盲孔による列点が装飾の特徴である。

Bタイプ(265～268) 匙部の破片を一括した。内外面とも入念に研磨されている。266は、くびれ部がつくられている。267は、中央に穿孔がある。いずれもごく薄くつくられている。

装身具(292～303・310～313)

飾りに用いられたものの中、身体の装飾に使用したと思われるものを装身具とした。292は、鹿角製の模造牙製品である。293は、イノシシ下顎犬歯製の腕輪であろうか。294は鹿角製の平玉。295・296は鳥骨製の管玉と思われる。297はネズミザメの椎骨に穿孔したもの。298は用途不明品である。299～301はスズキの鰓蓋骨製品である。302は鳥骨に一定間隔で深めの刻線が入ったものである。玉の未製品かもしれない。311は海獣肋骨製の腕輪と思われる。スプーンと同様にシャープな刻線と盲孔が付けられている。

312・313はイノシシ下顎犬歯の化石化したものを腕輪に加工している。明らかに搬入品とみられる。穿孔方法に特徴がないために、材料で入ったか、加工品で搬入されたかどうかはわからない。310は腕輪としたが、スプーンの彫刻部分の可能性もある。頭部の先端には四肢をひろげた獣類(クマ?)が彫り出されている。

その他(264・277・304～309・314～325)

その他としたものには用途不明の骨角製品と、自然遺物がある。

骨角製品(264・277・304～309・322～325)

264・277・322～325は骨棒ないしは指揮棒とした用途不明品である。264・277は、いずれも動物彫刻が付けられている。324・325には握部分が作られている。324の握(つか)の

両側には獣類(クマ)の頭部とみられる彫刻がある。彫刻はスプーンと異なり、主に研ぎで削り出されたものとみられる。304～306は、両端に穿孔のある小札状の製品である。太めの刻線が表側(骨の内側)に施されている。よく似た製品が古代にある。^{註(3)}

308・309は従来弓筈型骨器と呼ばれていたものである。器体には、精緻な文様が施されている。

自然遺物(314～321) 314～321はホホジロサメの歯である。1頭分11個が出土している。副葬品とみられる。他にオオノガイが5個出土している。これも副葬品であろう。

本稿を起こすに当り、国立歴史民俗博物館助教授の西本豊弘氏と東京大学文学部助手の新美倫子氏に資料の同定や区分について多くの助言を頂いた。記してお礼申し上げます。

また、原稿の作成にあたっては、古屋敷則雄氏、福田裕二氏に助言を頂いた。図版の作成にあたっては、佐々木日登美氏と西川秋子氏、角川睦子氏、笹野武則氏ほか多くの方々にご協力を頂きました。感謝致します。

(函館市教育委員会 文化財課 学芸員)

(函館市教育委員会 石倉貝塚 調査員)

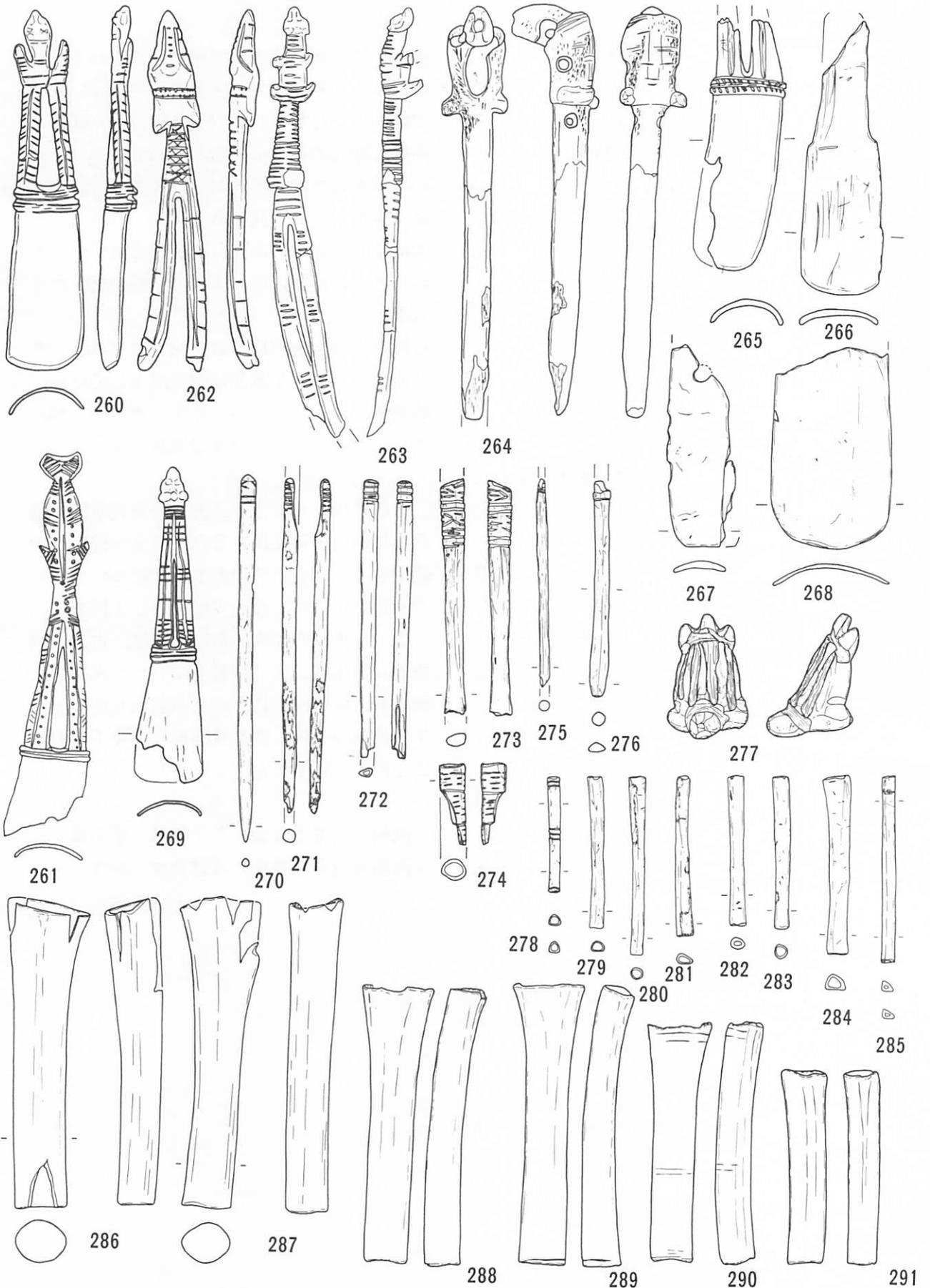


図7 スプーン・ヘアピン・骨角製品・針ケース S=1/2

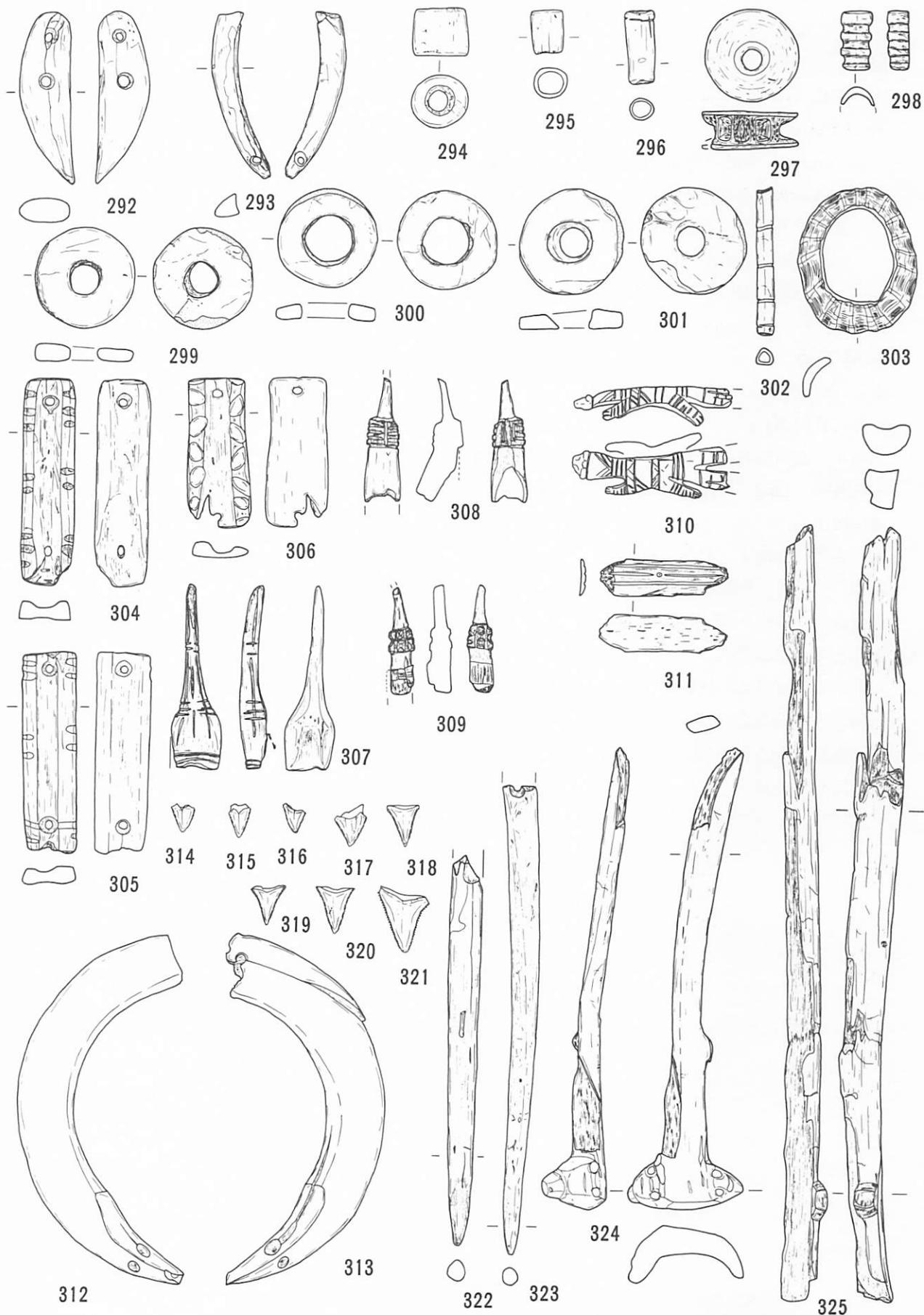


図8 装身具・骨角製品 S = 1/2

註

- (1) 木村 (1982) による
- (2) Charles Miles
“Indian and Eskimo Artifacts of North America” NewYork による
- (3) 宮城県石巻市 五松山洞窟遺跡出土品にあると
の西本氏の教示による
『五松山洞窟遺跡』石巻市教育委員会 1988

参考文献

- 市立函館博物館1994『市立函館博物館蔵品目録－7－
考古資料編』
- 函館市・函館市教育委員会1979『函館市の文化財』
- 木村英明 1982 「骨角器」『縄文文化の研究』6
雄山閣出版
- 大島直行 1988 a 「北海道続縄文の漁撈具－恵山式
銚頭について」『考古学ジャーナル』 第295号
- 大島直行 1988 b 「続縄文時代恵山式銚頭の系譜」『季
刊考古学』第25号
- 戸井町教育委員会 1993 『戸井貝塚Ⅲ』
- 松前町教育委員会 1988 『寺町貝塚』
- 渥美町教育委員会 1988 『伊川津遺跡』
- 八雲町教育委員会 1992 『コタン温泉遺跡』

表 1

標本No	大分類	名称	細分類	素材	部位	完欠	長さ	幅	高さ	備 考	登録	番号
1	漁撈具	銚頭	基孔式単尾型	鹿角		完	82.7	41	15.7	石銚装着タイプ 刻線あり	C-1	14
2	漁撈具	銚頭	基孔式単尾型 (?)	鹿角		部分	(42)	12.6	10.5	石銚装着タイプ 刻線あり 一端タール付	C-1	24
3	漁撈具	銚頭	基孔式単尾型	鹿角		完	103	19.8	61	朱彩 先端部再加工 刻線あり	C-1	23
4	漁撈具	銚頭	基孔 (?) 単尾 (?)	鹿角		部分	(51.5)	(12.5)	13	不明 刻線あり 副葬品	C-1	33
5	漁撈具	銚頭	基孔式双尾型	鹿角		完	61.5	14	7.8	索孔あり 削痕あり 尾部切断痕あり	C-1	13
6	漁撈具	銚頭	基孔式双尾型	鹿角		部分	60.5	14.5	11	側縁片アグ 先端部切断痕あり	E-1	3-8
7	漁撈具	銚頭	基孔式双尾型	鹿角		一部欠	100.5	15	9.7	索孔あり 先端部片アグ 体部片アグ	C-1	30
8	漁撈具	銚頭	基孔式双尾型	鹿角		一部欠	(93.3)	16.5	7.6	索孔あり 焼成痕 先端部片アグ 体部双アグ	C-1	43
9	漁撈具	銚頭	基孔式双尾型	鹿角		一部欠	107	19.2	10	索孔なし 先端部双アグ 体部双アグ	C-1	26
10	漁撈具	銚頭	基孔式双尾型	鹿角		完	(90.3)	22	10	索孔あり 先端部双アグ	C-1	27
11	漁撈具	銚頭	基孔式双尾型	鹿角		一部欠	84.3	20.1	12	索孔あり 先端部双アグ	C-1	28
12	漁撈具	銚頭	基孔式双尾型	鹿角		一部欠	(76.2)	20.5	11	索孔あり 先端部双アグ	C-1	31
13	漁撈具	銚頭	基孔式双尾型	鹿角		一部欠	(74.7)	19.3	10	索孔あり 先端部双アグ	C-1	29
14	漁撈具	銚頭	基孔式双尾型	鹿角		一部欠	66.5	12	10.4	索孔あり 先端部双アグ	C-1	34
15	漁撈具	銚頭	基孔式双尾型	鹿角		一部欠	62.5	13	7.6	索孔あり 焼成痕 先端部双アグ	C-1	44
16	漁撈具	銚頭	基孔式双尾型 (?)	鹿角		部分	(53.6)	22	9.8	先端部切断痕あり 江戸時代?	C-1	35
17	漁撈具	銚頭	基孔式双尾型 (?)	鹿角		部分	(50)	14	(9.8)	残片 索孔あり 基孔の痕跡有り	C-1	70
18	漁撈具	銚頭	基孔式双尾型	鹿角		完	50.2	18.2	8.8	先端部再加工痕あり	C-1	F8
19	漁撈具	銚頭	基孔式双尾型	鹿角		部分	(56.5)	17.8	10.9	タール付 先端部切り落とし	C-1	F1
20	漁撈具	銚頭	基孔式双尾型	鹿角		部分	(51)	18	11.5	索孔あり 先端部形状不明	C-1	36
21	漁撈具	銚頭	基孔式双尾型 (?)	鹿角		部分	(51)	13	9.5	索孔あり 先端部形状不明	C-1	37
22	漁撈具	銚頭	基孔式双尾型	鹿角		部分	(39.3)	18.5	9.5	索孔あり 先端部形状不明	C-1	39
23	漁撈具	銚頭	基孔式双尾型 (?)	鹿角		部分	(33.5)	9.5	8.5	索孔の痕跡あり 先端部形状不明	C-1	53
24	漁撈具	銚頭	基孔式双尾型 (?)	鹿角		部分	(35)	17.3	10.3	索孔あり 先端部形状不明	C-1	42
25	漁撈具	銚頭	基孔式双尾型 (?)	鹿角		一部欠	(80.6)	66	10	索孔あり 先端部双アグ?	E-1	3-1
25	漁撈具	銚頭	挿入式	鯨骨		完	127	27.8	11.5	索孔なし オホーツク?	C-1	71
26	漁撈具	銚頭	挿入式	鹿角		完?	(85.5)	18	9.5	索孔なし	C-1	25
27	漁撈具	銚頭	挿入式	鹿角		完	(127.8)	21	9.6	索孔あり	C-1	12
28	漁撈具	銚頭	挿入式	鹿角		部分	(69.1)	19.1	8.3	索孔あり 朱彩痕あり	E-1	3-3
29	漁撈具	銚頭	未製品	鯨骨		完?	113	31.5	16	先端部・側縁部面取り加工 尾部切り込みあり	C-1	F28
30	漁撈具	銚頭	先端部	鹿角		部分	(54.5)	15.5	9.3	索孔の痕跡あり 切除片?	C-1	38
31	漁撈具	銚頭	先端部	鹿角		部分	(41)	15	9	索孔の痕跡あり? 片アグ2段	C-1	40
32	漁撈具	銚頭	先端部	鹿角		部分	(49)	14	7.5	焼成痕 先端部双アグ	C-1	45
33	漁撈具	銚頭	先端部	鹿角		部分	(84.3)	19.9	9.4	多アグ銚頭先端部	C-1	32
34	漁撈具	銚頭	先端部	鹿角		部分	(43.5)	12	10	残片 (鹿角角先の切り落とし?)	C-1	60
35	漁撈具	銚頭	先端部	鹿角		部分	(36)	12	11.8	残片 (鹿角角先の切り落とし?)	C-1	61
36	漁撈具	銚頭	先端部	鹿角		部分	(38.3)	11.7	10.2	残片 (鹿角角先の切り落とし?)	C-1	62
37	漁撈具	銚頭	先端部	鹿角		部分	(37)	9	10	残片 (鹿角角先の切り落とし?)	C-1	63
38	漁撈具	銚頭	先端部	鹿角		部分	(27)	φ10		残片 (鹿角角先の切り落とし?)	C-1	64
39	漁撈具	銚頭	先端部	鹿角		部分	(24.5)	6.2	6	残片 (鹿角角先の切り落とし?)	C-1	65
	漁撈具	銚頭	先端部	鹿角		部分	(35.5)	15.3	8	先端部片アグ	C-1	41
	漁撈具	銚頭	先端部	鹿角		部分	(33)	11	6.5	先端部片アグ	C-1	46
	漁撈具	銚頭	先端部	鹿角		部分	(34)	(12)	(7.5)	焼成痕 アグのみ	C-1	49
	漁撈具	銚頭	先端部	鹿角		部分	(28.5)	9.3	5	焼成痕 アグのみ	C-1	50
	漁撈具	銚頭	先端部	鹿角		部分	83	19	7.4		C-1	F31
	漁撈具	銚頭	先端部	不明		部分	(56)	17.8	10.6		C-1	F32
	漁撈具	銚頭	尾部 (?)	鹿角		部分	(20.5)	10	6.5	焼痕あり 端部尖端のみ?	C-1	52
	漁撈具	銚頭	残片	鹿角		部分	(31)	6	(4.5)	銚頭か尖頭轄の残片	C-1	55
	漁撈具	銚頭	先端部	鹿角		部分	(23.5)	11.8	5.5		E-1	3-15
	漁撈具	銚頭	残片	鹿角		部分	(26)	7.7	7	両端切り落とし	C-1	69
	漁撈具	銚頭	残片	鹿角		部分	(33)	11	6.5	未製品? 両端切り落とし	C-1	75
	漁撈具	銚頭	残片	鹿角		部分	(48)	7.5	8	切り落としと痕あり	C-1	130
	漁撈具	銚頭	残片	鹿角		部分	(34.5)	7	7.5	切断痕あり	C-1	137
	漁撈具	銚頭	残片	鹿角		部分	(41.5)	10.5	6	切断痕あり	C-1	165
	漁撈具	銚頭	残片	鹿角		部分	(30.5)	10	4.5	銚頭先端破片	C-1	168
	漁撈具	銚頭	残片	鹿角		部分	(45)	7.5	8	不明 未製品 両端切り落とし	C-1	287
	漁撈具	銚頭	残片	鹿角		部分	(50.5)	15	(8)	未製品?加工痕あり 刻線?あり	C-1	290
40	漁撈具	釣針	単式	鹿角		部分	78	(19.4)	6.8	頭部作出	C-1	81
41	漁撈具	釣針	単式	鹿角		部分	(84)	(10)	6.3	頭部作出	C-1	82
42	漁撈具	釣針	単式	鹿角		部分	(48.4)	(14)	6.8	頭部作出	C-1	86
43	漁撈具	釣針	単式	鹿角		部分	(17.3)	11.8	5		C-1	88
44	漁撈具	釣針	単式・軸部	鹿角		半製品	(50)	19.8	9		C-1	84
	漁撈具	釣針	単式	鹿角		半製品	75	20	9		C-1	83
	漁撈具	釣針	単式	鹿角		部分	(31)	17	8.5		C-1	85
	漁撈具	釣針	単式	鳥骨		部分	35.1	11	2		C-1	89
	漁撈具	釣針	単式	鹿角		部分	(54.5)	8	6.8		C-1	115
	漁撈具	釣針	単式	鹿角		部分	(44)	10.8	8		C-1	127
	漁撈具	釣針	単式	鹿角		部分	(81)	11	12		C-1	F34
	漁撈具	釣針	単式	鹿角		部分	(87)	21.8	10.6		C-1	F19
45	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		完	71.5	φ5		複軸?	C-1	121
46	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		完	85.2	φ5.5			C-1	118
47	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		完	80	φ6.5		複軸?	C-1	120
48	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		完	92.5	6	5	複軸?	C-1	117
49	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		完	2.8	4.8	4.2		C-1	160
50	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		完	3.2	4	3.5		C-1	158
51	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		完	37.3	7	3.5		C-1	141
52	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		完	77	φ7.8			C-1	119
53	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		完	58	φ5.5		上下にタール 複軸?	C-1	122
54	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		完	55.5	6	3.5	複軸?	C-1	123
55	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		部分	(36)	φ5.5			C-1	157
56	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		部分	(42.2)	7	6.5	結合部段太	C-1	134
57	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		部分	58.9	4.8	5.1	L字型?	C-1	100
58	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		部分	(48.9)	6.5	6		C-1	154
59	漁撈具	釣針	軸部	海獣骨	肋骨	完	77.7	6.5	10	L字型	C-1	84

表 2

標本号	大分類	名称	細分類	素材	部位	完欠	長さ	幅	高さ	備考	登録番号
60	漁撈具	釣針	針先	鹿角		完	33	6.5	4.2	片逆刺 C-1-84と組合せ?	C-1 95
61	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		完	86.2	7.1	6	L字型	C-1 92
62	漁撈具	釣針	針先	鹿角		完	44.6	6.6	5	片逆刺 C-1-92と組合せ?	C-1 93
63	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		完	92	7.2	7.5	L字型	C-1 90
64	漁撈具	釣針	軸部	海獣骨	肋骨	完	96	8	7	L字型	C-1 106
65	漁撈具	釣針	軸部	海獣骨	肋骨	部分	(96.5)	8	5.5	L字型	C-1 108
66	漁撈具	釣針	軸部	海獣骨	肋骨	完	111.5	8	6.2	L字型	C-1 103
67	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		完	95.5	φ5.2		L字型	C-1 96
68	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		完	113	9.5	7	L字型	C-1 104
69	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		部分	(43)	φ5			C-1 156
70	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		部分	(35)	6.5	6.2		C-1 F20
71	漁撈具	釣針	軸部	海獣骨	肋骨	部分	(53)	7	4.7		C-1 128
72	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		完	48	12.8	7.5	銛先転用品	C-1 126
73	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		部分	(44.2)	φ4.8			C-1 155
74	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		部分	(52)	7	5.8	未製品?	C-1 129
75	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		部分	(25.5)	5	4.2	焼痕のある残片	C-1 150
76	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		部分	(30.8)	φ5.5			C-1 147
77	漁撈具	釣針	針先	鹿角		部分	(32)	5.3	4		C-1 145
78	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		部分	(33.4)	7	5.2		C-1 139
79	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		部分	(26)	φ3.8		焼痕のある残片	C-1 151
80	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		部分	(54)	6.5	5		C-1 124
81	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		部分	(61.3)	φ5.5			C-1 125
82	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		部分	(47)	8.5	7.4	軸部頭	C-1 153
83	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		部分	(44)	8	6	L字型	C-1 87
84	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		部分	(32)	6	5.5		C-1 144
85	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		部分	(31.3)	6.5	5.5		C-1 136
86	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		部分	(25.8)	7	6	切断痕あり	C-1 148
87	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		部分	(28.4)	φ6.5			C-1 133
88	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		部分	(44)	φ4.8			C-1 140
89	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		部分	(31.9)	φ4.3			C-1 142
90	漁撈具	釣針	軸部	不明		部分	(30.2)	4.6	3.1		C-1 149
91	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		部分	(25)	φ5			C-1 146
	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		部分	(69.1)	24.5	19.5	軸部破損品	C-1 72
	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		部分	(64.9)	7.5	10.6	軸部破損品	C-1 73
	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		部分	(60)	15	(10.5)	軸部破損品	C-1 74
	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		部分	(61.2)	14.5	(11)	軸部破損品	C-1 76
	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		部分	(33.5)	13.5	11	軸部破損品	C-1 77
	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		部分	(65.5)	φ4.8		L字型	C-1 98
	漁撈具	釣針	軸部	海獣骨	肋骨	部分	(123.8)	6.5	9	L字型	C-1 102
	漁撈具	釣針	軸部	海獣骨	肋骨	部分	(112)	10	6	L字型	C-1 105
	漁撈具	釣針	軸部	海獣骨	肋骨	部分	(100.5)	9.5	6.2	L字型	C-1 107
	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		部分	(83)	7	7.2	L字型	C-1 109
	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		部分	(7)	9	7	L字型	C-1 110
	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		部分	(80)	9.5	6.2	L字型	C-1 111
	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		部分	(77)	11.2	8.8	大型	C-1 112
	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		部分	(54.3)	6.5	5.8		C-1 114
	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		部分	(5.5)	5.3	5.8		C-1 116
	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		部分	(25)	φ7.8		穿孔痕あり	C-1 143
	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		部分	(17)	6.5	6	軸部頭	C-1 161
	漁撈具	釣針	軸部	鹿角		部分	(30)	5.8	5		C-1 186
92	漁撈具	釣針	針先	鹿角		完	48	5.5	5	両逆刺	C-1 164
93	漁撈具	釣針	針先	鹿角		完	42	5.5	6	片逆刺	C-1 169
94	漁撈具	釣針	針先	鹿角		完	(35.8)	4.6	4.2	片逆刺	C-1 199
95	漁撈具	釣針	針先	鹿角		部分	(37.5)	8	4.3	片逆刺	C-1 173
96	漁撈具	釣針	針先	鹿角		完	42.6	6	4.5	片逆刺	C-1 101
97	漁撈具	釣針	針先	鹿角		部分	(38.4)	6.2	4.2	結合部段太 片逆刺	C-1 172
98	漁撈具	釣針	針先	鹿角		部分	(34)	6	5	二段逆刺	C-1 170
99	漁撈具	釣針	針先	鹿角		部分	(47)	8.8	6	片逆刺	C-1 162
100	漁撈具	釣針	針先	鹿角		完	47.2	8	4.8	片逆刺	C-1 91
101	漁撈具	釣針	針先	鹿角		部分	(52)	5.2	5	片逆刺	C-1 97
102	漁撈具	釣針	針先	鹿角		完	(30.2)	6	4.9	片逆刺	C-1 174
103	漁撈具	釣針	針先	鹿角		完	(42)	φ6.2		結合部段太 片逆刺	C-1 175
104	漁撈具	釣針	針先	鹿角		完	38	6.3	4.5	両逆刺	C-1 176
105	漁撈具	釣針	針先	鹿角		完	33.5	5	4	片逆刺	C-1 177
106	漁撈具	釣針	針先	鹿角		完	35.5	7.5	2.5	片逆刺	C-1 178
107	漁撈具	釣針	針先	鹿角		完	33.2	5.9	5	片逆刺	C-1 179
108	漁撈具	釣針	針先	鹿角		完	(32.2)	6.2	4.3	両逆刺	C-1 181
109	漁撈具	釣針	針先	鹿角		完	33.3	5	4.3	片逆刺	C-1 182
110	漁撈具	釣針	針先	鹿角		一部欠	30	6	3	両逆刺	C-1 183
111	漁撈具	釣針	針先	鹿角		完	26.5	5	4.5	片逆刺	C-1 184
	漁撈具	釣針	針先	鹿角		部分	(39)	9.4	2.3		C-1 58
	漁撈具	釣針	針先	不明		部分	(24)	4	3.2		C-1 99
	漁撈具	釣針	針先	鹿角		完	50	7.8	6.4	片逆刺	C-1 163
	漁撈具	釣針	針先	鹿角		完	37.5	6.8	4.3	片逆刺	C-1 171
	漁撈具	釣針	針先	鹿角		部分	(23)	5.4	4	片逆刺	C-1 185
	漁撈具	釣針	針先	鹿角		完	40.5	7	1.8	両逆刺 (片側逆刺2段)	C-1 59
	漁撈具	釣針	?	鹿角		半製品	(36.8)	10.3	(8.5)	切落 銛先転用品?	C-1 138
	漁撈具	釣針	?	鹿角		部分	(58)	5	5.5		E-1 3-6
	漁撈具	釣針	?	鹿角		部分	(37)	12.5	10		C-1 135
	漁撈具	釣針	?	鹿角		部分	(39.2)	φ3.5		骨針? 釣針?	C-1 F33
118	漁撈具	ヤス	組合せヤス	鯨骨		完	346	φ22.5		叉状ヤス	C-1 15
154	漁撈具	ヤス	組合せヤス頭部欠	鹿角		部分	(90.5)	10	(7.5)	ヤス 先端部段状	C-1 284
192	漁撈具	ヤス?	未製品	鹿角		部分	106	21	17	ヘラ? リッター?	C-1 F18
195	漁撈具	ヤス?	組合せヤス?	鹿角		部分	(95.5)	23.5	15.5	未製品? 半割	C-1 302

表 3

標本No	大分類	名称	細分類	素材	部位	完欠	長さ	幅	高さ	備 考	登録番号
	漁撈具	ヤス	組合せヤス	鯨骨		部分	(40.6)	17.1	9.5		C-1 F35
112	生活用具	刺突具	頭部欠	イルカ類	下顎骨	部分	(147.8)	44	14		C-1 446
113	生活用具	刺突具	頭部欠	イルカ類	下顎骨	部分	(131)	29.5	3.4		C-1 447
114	生活用具	刺突具		エゾシカ	尺骨左	完	166.5	44	23.2		C-1 21
115	生活用具	刺突具		エゾシカ	尺骨左	完	142.3	47	25.2		C-1 445
116	生活用具	刺突具		エゾシカ	中足骨	完	113.4	24	9		C-1 20
117	生活用具	刺突具		エゾシカ	中手・中足骨	完	155.4	11	10.9		C-1 280
119	生活用具	刺突具	近位部欠	メカジキ	吻端骨	部分	(214.5)	22	13		C-1 18
120	生活用具	刺突具	頭部欠	海獣骨	肋骨	部分	(206.5)	φ4.5			C-1 203
121	生活用具	刺突具		エゾシカ	中手・中足骨	完	180	6	7.2		C-1 201
122	生活用具	刺突具		マグロ	棘突起	一部欠	(160.5)	9.5	5		C-1 283
123	生活用具	刺突具		マグロ類	棘突起	完	145.7	12.9	6.8		C-1 281
124	生活用具	刺突具		獣骨		完?	(81.2)	6.5	5.8	先端部段状	C-1 235
125	生活用具	刺突具	頭部欠	鳥骨		部分	(99.5)	7	4	刻線あり	C-1 383
126	生活用具	刺突具	先端部	獣骨		部分	(74.8)	5	3.3		C-1 236
127	生活用具	刺突具		不明		完?	78.7	4	1.5		C-1 387
128	生活用具	刺突具		魚骨		完	81.2	4.2	4	骨針?	C-1 234
129	生活用具	刺突具		鹿角		完?	(25)	5.2	4.5	鈷頭か尖頭器の残片	C-1 159
130	生活用具	刺突具	先端部	鹿角		部分	(24.3)	4	3.5	鈷頭か尖頭器の残片	C-1 198
131	生活用具	刺突具	先端部	鹿角		部分	(47.9)	7.3	4	鈷頭か尖頭器の残片 孔痕あり	C-1 192
132	生活用具	刺突具	先端部	鹿角		部分	(51)	5.2	4.5		C-1 243
133	生活用具	刺突具		不明		完	69.1	4.8	3.4		C-1 240
134	生活用具	刺突具	先端部	オットセイ	肋骨	部分	(70.5)	8	6		C-1 237
135	生活用具	刺突具	先端部	鹿角		部分	(58.1)	6	4.3	先端部段状 頭部切断	C-1 187
136	生活用具	刺突具	先端部?	鹿角		部分	(26.9)	5	4	鈷頭か尖頭器の残片	C-1 197
137	生活用具	刺突具	先端部欠	鹿角		部分	(79.3)	9	4	逆刺あり	C-1 57
138	生活用具	刺突具	端部欠	鳥骨		部分	(68.5)	10	3.5		C-1 361
139	生活用具	刺突具	一部	鳥骨		部分	(72.5)	(7)	(2)		C-1 377
140	生活用具	刺突具	端部欠	鳥骨		部分	(72)	11	3		C-1 362
141	生活用具	刺突具	頭部欠	海獣骨	肋骨	部分	125.5	8.2	5.8	先端部段状?	C-1 275
142	生活用具	刺突具	端部欠	鳥骨		部分	(112.5)	7.5	3.5		C-1 357
143	生活用具	刺突具	端部欠	鳥骨		部分	(88)	13	4.5		C-1 454
144	生活用具	刺突具	端部欠	獣骨		部分	(78.2)	5.5	3	未製品?	C-1 307
145	生活用具	刺突具	先端部	獣骨		部分	(51.2)	5.3	4.5	先端部摩滅?	C-1 196
146	生活用具	刺突具	柄部	鹿角		部分	(69.6)	6.2	4.8	柄(頭)部面取り	C-1 239
147	生活用具	刺突具		エゾシカ		完	67.5	12.5	5.5	先端部摩滅	C-1 293
148	生活用具	刺突具		鹿角		完?	(60.5)	10.5	3	盲孔あり	C-1 375
149	生活用具	刺突具	先端部のみ	鹿角		部分	(70.8)	17.2	3.3		C-1 453
150	生活用具	刺突具	先端部	イルカ類	下顎骨	部分	(88.5)	(22.5)	(3)	先端近くに穿孔痕あり	C-1 448
151	生活用具	刺突具	先端部欠	鹿角		部分	(96.8)	20.2	3.8	孔あり	C-1 449
152	生活用具	刺突具	先端部のみ	鹿角		部分	(83)	13.9	5.5		C-1 452
153	生活用具	刺突具	端部欠	鳥骨		部分	(92)	10	3	ナイフ?	C-1 358
155	生活用具	刺突具	頭部欠	マグロ	棘突起	部分	(92.8)	11.8	8.2	先端部摩滅 段状加工	E-1 7-9
156	生活用具	刺突具	端部欠	鳥骨		部分	(111.5)	9	3.5		C-1 355
157	生活用具	刺突具	頭部欠?	マグロ	棘突起	部分	(128.1)	5	4		E-1 3-12
158	生活用具	刺突具		エゾシカ	中手・中足骨	完	(143.5)	9	7.5		C-1 277
159	生活用具	刺突具		アホウ鳥	尺骨	完	250.6	9	7		C-1 325
160	生活用具	刺突具		アホウ鳥	尺骨	完	260	9.5	8	骨端あり	C-1 22
161	生活用具	刺突具		海ウ類	横骨	完	136.2	3.8	5.5		C-1 326
162	生活用具	刺突具	一部欠	鳥骨	横骨?	部分	(115.5)	3	4.5		C-1 329
163	生活用具	刺突具		ウ類	尺骨	完	121	6.5	6		C-1 327
164	生活用具	刺突具		ウ類	尺骨	完	(117)	5.8	6.2		C-1 328
165	生活用具	刺突具		鳥骨		完?	125	5.2	4.4		C-1 342
166	生活用具	刺突具	端部欠	鳥骨		部分	(101.5)	3.8	5.7		C-1 339
167	生活用具	刺突具	先端部	鳥骨		部分	(101)	7.5	9.5		C-1 335
168	生活用具	刺突具	頭部欠	鳥骨		部分	(110.6)	4	5		C-1 341
169	生活用具	刺突具	頭部欠	鳥骨		部分	(110.2)	5	4		C-1 380
170	生活用具	刺突具	端部欠	不明		部分	(116.6)	5.4	4.3		C-1 337
171	生活用具	刺突具	端部欠	鳥骨	横骨	部分	(136)	4	5.5		C-1 336
172	生活用具	刺突具	端部欠	鳥骨	横骨	部分	(90.8)	5.5	3.7		C-1 338
173	生活用具	刺突具		不明		部分	(98)	5	3.5		C-1 340
174	生活用具	刺突具	先端部	不明		部分	(82.8)	4.9	4.1		C-1 344
175	生活用具	刺突具	先端部	鳥骨		部分	(85.2)	6	5		C-1 343
176	生活用具	刺突具	先端部	鳥骨		部分	(75.5)	4.5	3.5		C-1 346
177	生活用具	刺突具	先端部	鳥骨		部分	(61.5)	4.6	4		C-1 345
178	生活用具	刺突具	先端部	鳥骨		部分	(52.2)	5	4.2		C-1 348
179	生活用具	刺突具	先端部	鳥骨		部分	(48)	3.9	4.2		C-1 349
180	生活用具	刺突具	先端部	鳥骨		部分	(60)	5.5	5		C-1 347
181	生活用具	刺突具	頭部欠	獣骨		部分	(49.6)	10	5	刺突具破損品再利用 先端部段状	C-1 188
182	生活用具	刺突具		獣骨		完	41	7.3	3.9	刺突具破損品再利用	C-1 189
183	生活用具	刺突具		獣骨		完	37.5	9.5	4	刺突具破損品再利用	C-1 190
184	生活用具	刺突具	先端部	鳥骨		部分	(36.5)	(6.5)	(5)		C-1 322
185	生活用具	刺突具		獣骨		完	49.1	8	5	刺突具破損品再利用	C-1 191
186	生活用具	刺突具		鹿角		完	44	9	5	刺突具破損品再利用 風化	C-1 193
187	生活用具	刺突具		マグロ	棘突起	完	169.5	5.2	9	断面カマボコ状	C-1 279
188	生活用具	刺突具		鹿角		完	100.5	14.2	10.5	断面カマボコ状 半製品	C-1 282
	生活用具	刺突具		イルカ類	下顎骨	部分	227.5	61	14.4		C-1 19
	生活用具	刺突具		不明		部分	(51)	7.1	4.5	鈷頭か尖頭器の残片 焼痕あり	C-1 51
	生活用具	刺突具	先端部	鹿角		部分	(65)	11.2	8.5	穿孔痕あり 鈷頭?	C-1 68
	生活用具	刺突具	先端部のみ	獣骨		部分	43	4.5	1.8		C-1 180
	生活用具	刺突具		鹿角		完	40.5	8	6	刻線あり	C-1 194
	生活用具	刺突具	先端部	鹿角		部分	(40.2)	6.2	4.5		C-1 195
	生活用具	刺突具	柄部	海獣骨		部分	(64)	5.9	3.9	尖頭器残片	C-1 242
	生活用具	刺突具		鹿角		部分	(33)	5	4.5	鈷頭か尖頭器の残片?	C-1 246

表 4

標本No.	大分類	名称	細分類	素材	部位	欠欠	長さ	幅	高さ	備考	登録番号
	生活用具	刺突具		不明		部分	88	12	11.5	鹿角?魚骨?残片	C-1 285
	生活用具	刺突具	先端部	オットセイ	ベニスポン?	部分	(86.8)	9.5	8.2		C-1 286
	生活用具	刺突具	先端部のみ			部分	40	6	2.5		C-1 323
	生活用具	刺突具		タヌキ?		部分	(63)	11	9	骨端あり	C-1 333
	生活用具	刺突具	先端部?	鳥骨		部分	37	7	6.2		C-1 350
	生活用具	刺突具	先端部	鳥骨		部分	(55)	11.2	5.5		C-1 360
	生活用具	刺突具	先端部	鹿骨		部分	(51)	4	1.8		C-1 364
	生活用具	刺突具		不明		完?	48.3	4.2	1.8		C-1 365
	生活用具	刺突具		鹿骨		部分	(67)	(11.5)	(4.8)		C-1 376
	生活用具	刺突具	一部	鳥骨		部分	(50)	(10)	(3.3)		C-1 378
	生活用具	刺突具	先端部	鳥骨		部分	(59.5)	7	9		C-1 381
	生活用具	刺突具	両端欠	鳥骨		部分	(76)	5	3.5	残欠	C-1 386
	生活用具	刺突具	先端部のみ	鹿角		部分	(62)	12	3		C-1 455
	生活用具	刺突具		海獣骨		完	62	9	3		C-1 456
	生活用具	刺突具		鹿角		部分	(63.5)	(9.5)	4	焼痕のある残片	C-1 457
	生活用具	刺突具	先端部のみ	海獣骨		部分	50.5	6	3	未製品?	C-1 458
	生活用具	刺突具	両端欠	イルカ類	下顎骨	部分	(45)	25	2.8		C-1 459
	生活用具	刺突具	部分	イルカ類	下顎骨	部分	(45)	(19.5)	(3)		C-1 461
	生活用具	刺突具	先端部	エゾシカ	中手・中足骨	部分	(75.5)	9.2	7.8	リタッチャー?	E-1 3-2
189	生活用具	へら	一部欠	エゾシカ	中足骨	部分	180.5	22.1	12		C-1 304
190	生活用具	へら		鯨骨		完?	158.5	29	14.5		C-1 303
191	生活用具	へら		エゾシカ		完	53	11	5		C-1 292
193	生活用具	へら		鹿角		完	116	13.8	11.8	両端に加工 先端部作出	C-1 278
194	生活用具	へら		鹿角		部分	(92.5)	23.1	11.6		C-1 301
196	生活用具	へら	先端部	鳥骨		部分	(65.5)	7.5	2	ナイフ?	C-1 368
197	生活用具	へら	先端部欠	鳥骨	上腕骨	部分	(58)	12.5	2.5	ナイフ?	C-1 366
198	生活用具	へら		不明		部分	(73)	13	4	ナイフ? 鋸歯状	C-1 369
199	生活用具	へら	先端部欠	エゾシカ		部分	(104)	13.5	4.5	ナイフ?	C-1 374
200	生活用具	へら	先端部	鳥骨	上腕骨	部分	(80.3)	11	3.4		C-1 359
201	生活用具	へら	先端部	鳥骨	上腕骨	部分	(62.7)	7.3	2.9		C-1 363
202	生活用具	へら	先端部	鳥骨	上腕骨	部分	(82.9)	13	3.8		C-1 367
203	生活用具	へら	先端部	鳥骨	上腕骨	部分	(92.5)	12.7	3		C-1 356
204	生活用具	へら	先端部	鳥骨	上腕骨	部分	(104)	7.5	4		C-1 379
205	生活用具	へら	先端部	鳥骨	上腕骨	部分	(101)	11	4		C-1 354
206	生活用具	へら	先端部	鳥骨	上腕骨	部分	(110.5)	11.7	5		C-1 352
207	生活用具	へら	先端部	鳥骨	上腕骨	部分	(117.5)	12.5	5.5		C-1 353
208	生活用具	へら	頭部欠	鳥骨	上腕骨	部分	(136.5)	11	9	ナイフ?	C-1 351
209	生活用具	へら	両端欠	鳥骨		部分	(132.5)	8	3		C-1 373
210	生活用具	へら		鹿骨	肋骨	完	93.8	11	1.8		C-1 319
211	生活用具	へら		鹿骨	肋骨	完	96.2	9.2	1.3		C-1 320
212	生活用具	へら		鹿骨	肋骨	部分	(74)	9.5	2		C-1 370
213	生活用具	へら		鹿骨	肋骨	部分	(53)	9.3	1.5		C-1 371
214	生活用具	へら		不明		完	77.5	11.5	5	板状 先端部あり	C-1 317
215	生活用具	へら		不明		完	72.8	14	5	板状	C-1 316
216	生活用具	へら	先端部欠	鹿骨	肋骨	部分	(73.6)	12	4	板状	C-1 311
217	生活用具	へら	先端部欠	鹿骨	肋骨	部分	(82.2)	10.3	4.5	板状	C-1 315
218	生活用具	へら	先端部欠	鹿骨	肋骨	部分	(49.5)	12.8	4.2	板状	C-1 312
	生活用具	へら		エゾシカ	中手・中足骨	完	144.5	11.5	11	頭部切り込みあり	C-1 276
	生活用具	へら		鹿角		部分	(34)	13	7.2	残片?	C-1 291
	生活用具	へら		不明		部分	(82.5)	22.5	5.5		C-1 295
	生活用具	へら		鹿骨		完?	86.5	19.5	8		C-1 298
	生活用具	へら		鹿角		部分	(63.5)	15.5	8.2	破損品	C-1 299
	生活用具	へら	両端欠	鹿角		部分	(88.5)	7	6.8	先端部ヘラ状	C-1 305
	生活用具	へら	両端部欠	鳥骨		部分	(98.5)	10	5.5	刺突具?	C-1 306
	生活用具	へら	先端部欠	鹿骨	肋骨	部分	(62)	10	3.5	板状	C-1 310
	生活用具	へら	先端部欠	鹿骨	肋骨	部分	(55.5)	13	3.3	板状	C-1 313
	生活用具	へら		鹿角		部分	(65)	13.8	7	先端部	C-1 314
	生活用具	へら		鹿骨	肋骨	完?	69.8	11.5	4		C-1 318
	生活用具	へら		鹿骨	肋骨	部分	(18)	9.3	1.2		C-1 372
	生活用具	へら		鹿骨	肋骨	部分	(64)	(10)	(1)	板状	C-1 384
	生活用具	へら	先端部欠	鳥骨	上腕骨	部分	(48.1)	7	3.2	鋸歯状 ナイフ?	C-1 389
	生活用具	へら		不明		部分	(79.8)	(25.5)	(4.8)	スプーン?	C-1 450
	生活用具	へら	残欠	不明	肋骨	部分	(44.5)	(19)	(3)		C-1 460
219	生活用具	骨針		鹿骨		完	215	φ5.5		孔あり	C-1 204
220	生活用具	骨針		鹿角		完	153.5	6	5.1	骨? 孔あり	C-1 205
221	生活用具	骨針	先端部のみ			部分	(57)	4.2	4.7	焼成痕・孔あり	C-1 209
222	生活用具	骨針		鹿角		一部欠	(124)	φ4.5		孔あり	C-1 207
223	生活用具	骨針	先端部	鹿角		部分	(128.6)	5.7	5.5	孔あり	C-1 206
224	生活用具	骨針	柄部のみ	鹿骨		部分	(77.8)	5.5	4.6	破損部に孔痕あり	C-1 208
225	生活用具	骨針	先端部のみ	鹿角		部分	(22)	(4.8)	3.5	孔あり	E-1 3-22
226	生活用具	骨針	先端部	鹿骨		部分	(35.3)	4.8	4.3	骨針頭 孔あり	C-1 219
227	生活用具	骨針	先端部	鹿角		部分	(52.8)	5.9	5.2	骨針頭 孔あり	C-1 217
228	生活用具	骨針	先端部	鹿角		部分	(26.2)	5.5	3.8	骨針頭 孔あり	C-1 220
229	生活用具	骨針	両端部欠	マグロ	棘突起	部分	(55)	6.6	5.5	頭部飾りあり	C-1 215
230	生活用具	骨針	両端部欠	鹿角		部分	(59.2)	6	4.7	中間部 孔・刻みあり	C-1 216
231	生活用具	骨針	先端部	鹿骨		部分	(38.2)	7	4.8	骨針頭 刻線あり	C-1 218
232	生活用具	骨針		不明		完?	(67.8)	4.5	3.1	マグロ類 棘突起?	C-1 241
233	生活用具	骨針		鹿骨		完	93.2	4.5	3.5	頭部ヘラ状・先端部摩滅	C-1 230
234	生活用具	骨針		マグロ	棘突起	完?	106	6.9	5		C-1 227
235	生活用具	骨針		鹿角		部分	(102.5)	φ5.2			C-1 229
236	生活用具	骨針	頭部欠	鹿角		部分	(105.5)	φ4.8			C-1 228
237	生活用具	骨針	頭部欠	鹿角		部分	(108.5)	6.2	5.2		C-1 226
238	生活用具	骨針	頭部欠	鹿角	肋骨	部分	(127)	6	5.1	先端部欠	C-1 224
239	生活用具	骨針	頭部欠	鹿角		部分	(156.5)	6	5		C-1 222

表 5

標本No	大分類	名称	細分類	素材	部位	完欠	長さ	幅	高さ	備考	登録番号
240	生活用具	骨針		獣骨		完	214.5	φ5.5		頭部刻み付	C-1 202
241	生活用具	骨針		鳥骨		完	51.3	2	1.8	頭付	C-1 260
242	生活用具	骨針		鳥骨		完	46	2.2	1.2	頭付	C-1 263
243	生活用具	骨針	先端部欠	鳥骨		部分	(54)	2	1.5	頭付	C-1 261
244	生活用具	骨針		鳥骨		完	42.5	1.6	1.1	頭付	C-1 264
245	生活用具	骨針		鳥骨		完	(40.3)	2.1	1.3	頭付	C-1 265
246	生活用具	骨針		鳥骨		完	55.2	1.8	1.5	頭付	C-1 262
247	生活用具	骨針	先端部欠	鳥骨		部分	(71.7)	2.8	1.6	頭付	C-1 256
248	生活用具	骨針		鳥骨		完	79.3	1.8	1.5	頭付	C-1 259
249	生活用具	骨針		鳥骨		完	82.1	2	1.5	頭付	C-1 257
250	生活用具	骨針		鳥骨		完	104.3	2	1.7	頭付	C-1 251
251	生活用具	骨針		鳥骨		完	88.2	2	1.8	頭付	C-1 254
252	生活用具	骨針		不明		部分	(63)	2	1.8		E-1 3-19
253	生活用具	骨針		鳥骨		完	71.2	2.1	1.9	頭付	C-1 253
254	生活用具	骨針	端部欠	鳥骨		部分	(72.3)	2.2	1.5		C-1 255
255	生活用具	骨針	端部欠	鳥骨		部分	(84.2)	3.5	1.5	刺突具?	C-1 245
256	生活用具	骨針	端部欠	鳥骨		部分	(71.4)	2.1	2		C-1 258
257	生活用具	骨針	端部欠	鹿角		部分	(53.2)	2	1.6		C-1 268
258	生活用具	骨針	端部欠	鹿角		部分	(38.7)	φ2			C-1 266
259	生活用具	骨針	端部欠	鹿角		部分	(35)	φ2.2			C-1 267
	生活用具	骨針	両端部欠	鹿角		部分	(71.5)	10	6	穿孔・焼痕のある残片	C-1 47
	生活用具	骨針		鹿角		完	88.1	8.2	4	骨針頭 孔あり	C-1 55
	生活用具	骨針		鹿角		部分	(29.1)	5	4.5	骨針頭	C-1 221
	生活用具	骨針		鹿角		一部欠	(111.1)	5.6	5.2		C-1 225
	生活用具	骨針		獣骨		部分	(91.9)	φ4.2			C-1 231
	生活用具	骨針		鹿角		部分	(82)	φ5.2		尖頭鏃残片	C-1 232
	生活用具	骨針		不明		部分	(72.5)	φ5.4			C-1 233
	生活用具	骨針	先端部	鹿角		部分	(71.3)	φ4.3			C-1 238
	生活用具	骨針	先端部のみ	鹿角		部分	(31.7)	4.2	4.5	銚頭か尖頭鏃の残片	C-1 247
	生活用具	骨針		鳥骨		部分	(88.2)	2.9	1.8	頭付	C-1 249
	生活用具	骨針		鳥骨		部分	(128.2)	2	1.6	頭付	C-1 250
	生活用具	骨針		鳥骨		完	88.6	2.2	1.2	頭付	C-1 252
	生活用具	骨針	部分	鹿角		部分	(31)	(6.5)	(5.5)		C-1 270
	生活用具	骨針	端部欠	鹿角		部分	(23.5)	12	5.5	未製品?	E-1 3-15
260	生活用具	スプーン		鹿角		一部欠	133	27.5	9.2	動物彫刻付(クマ)	C-1 466
261	生活用具	スプーン	端部欠	鹿角		一部欠	(143.6)	26.8	7	動物彫刻付(イルカ?鯨?)	C-1 5
262	生活用具	スプーン		鹿角		一部欠	(132)	22	7	動物彫刻付(セミ鯨)	C-1 6
263	生活用具	スプーン		鹿角		一部欠	(158)	17	14.3	C-1-467と接合動物彫刻付(クマ)	C-1 309
263	生活用具	スプーン		鹿角		一部欠	(158)	17	14.3	C-1-309と接合	C-1 467
265	生活用具	スプーン	匙部	鹿角		後端欠	(95)	28.2	10.5	接合?彫刻付	C-1 4
266	生活用具	スプーン	匙(?)部	獣骨		一部欠	(102.5)	30.5	5	浅型	C-1 471
267	生活用具	スプーン		鹿角		一部欠	(74.4)	(25)	(5.5)	孔あり	C-1 472
268	生活用具	スプーン	匙(?)部	イルカ類	下顎骨	部分	(74.8)	44.7	12	浅型(広口)	C-1 470
269	生活用具	スプーン		鹿角		一部欠	(117.2)	(24.5)	4.6	C-1-458と接合動物彫刻付(クマ)	C-1 473
269	生活用具	スプーン	先端欠	鹿角		一部欠	(117.2)	(24.5)	4.6	C-1-473と接合動物彫刻付(クマ)	C-1 458
	生活用具	スプーン	匙部	イルカ類	下顎骨	部分	(186)	45	8.8	浅型(広口)	C-1 469
	生活用具	スプーン	匙部	陸獣骨	肋骨	部分	(74.2)	(20.5)	(2.8)	穿孔あり	C-1 451
	生活用具	スプーン	匙部	海獣骨		一部欠	(159)	31.5	(11)	刻線あり	C-1 468
	生活用具	スプーン	匙(?)部	イルカ類	下顎骨	部分	(47)	19.5	2.4	浅型(広口)	C-1 474
	生活用具	スプーン	匙部	不明	肋骨	部分	(60)	(23.5)	(1.8)		E-1 3-13
270	装身具	ヘアピン		鹿角		完	135	φ6		頭部刻線文様あり	C-1 210
271	装身具	ヘアピン	先端部欠	鹿角		一部欠	(123.2)	6	5.2	頭部刻線文様あり	C-1 211
272	装身具	ヘアピン	先端部欠	水ナギ鳥	橈骨	一部欠	(103)	6	4	頭部刻線文様あり	C-1 390
273	装身具	ヘアピン	先端部欠	海獣骨	腓骨	部分	(87.2)	9.5	7	頭部刻線文様あり	C-1 212
274	装身具	ヘアピン		鳥骨	上腕骨	部分	(30.2)	10	7.5	頭部刻線文様あり	C-1 410
275	装身具	ヘアピン	両端部欠	海獣骨		部分	(76.3)	φ4.3		頭部飾りあり	C-1 214
276	装身具	ヘアピン	柄部	海獣骨	腓骨	部分	(79)	6	5	柄(頭部)面取り	C-1 223
	装身具	ヘアピン		マグロ	棘突起	部分	(165.1)	10	5	頭部飾りあり	C-1 200
	装身具	ヘアピン		マグロ	棘突起	部分	(77.2)	6	4.2		C-1 213
	装身具	ヘアピン		オットセイ	腓骨	部分	100	7.9	7.5		C-1 475
278	生活用具	針ケース		鳥骨		完	42.5	5	4.5	刻線あり	C-1 409
279	生活用具	針ケース		鳥骨		完	56	5.2	4.2		C-1 400
280	生活用具	針ケース		水ナギ鳥		完	66	6.2	3.9		C-1 392
281	生活用具	針ケース		鳥骨		完	59	6	4		C-1 396
282	生活用具	針ケース		鳥骨	上腕骨	完	5.5	6.6	4.5		C-1 403
283	生活用具	針ケース		鳥骨	上腕骨	完	51	6	4.5		C-1 395
284	生活用具	針ケース		カイツブリ?	上腕骨	完	65.5	9.8	6		C-1 399
285	生活用具	針ケース	端部欠	鳥骨		一部欠	(68.8)	5.8	3.7		E-1 3-7
286	生活用具	針ケース		鳥骨	上腕骨	完	114.5	30.5	18.2	大型鳥	C-1 412
287	生活用具	針ケース		鳥骨	上腕骨	完	116	30.5	20.3	大型鳥	C-1 411
288	生活用具	針ケース		鳥骨	上腕骨	完	102.9	27.1	15	大型鳥	C-1 414
289	生活用具	針ケース		鳥骨	上腕骨	完	104.6	26.8	16	大型鳥	C-1 413
290	生活用具	針ケース		鳥骨	上腕骨	完	89.2	24.5	14	大型鳥	C-1 416
291	生活用具	針ケース		鳥骨	上腕骨	完	71.5	17.3	14	大型鳥	C-1 417
	生活用具	針ケース		水ナギ鳥	尺骨	完	74	6	4.3		C-1 391
	生活用具	針ケース		鳥骨		部分	(56.5)	5	4.7		C-1 393
	生活用具	針ケース		鳥骨		部分	(58.2)	7.1	4.8		C-1 394
	生活用具	針ケース		鳥骨		部分	(59.6)	5	4		C-1 397
	生活用具	針ケース		水ナギ鳥	尺骨	完	50	5.1	5		C-1 398
	生活用具	針ケース	端部欠	不明		部分	(42)	5.8	4.5		C-1 402
	生活用具	針ケース	一部欠	鳥骨		部分	30.5	5.5	4.6	玉?	C-1 404
	生活用具	針ケース	一部欠	鳥骨		部分	30.2	5.5	4.2	玉?	C-1 405
	生活用具	針ケース	一部欠	鳥骨		部分	(29.6)	8	6	玉?	C-1 406
	生活用具	針ケース		鳥骨		完	42	5.4	5	頭部飾りあり	C-1 408

表 6

種別	大分類	名称	細分類	素材	部位	完欠	長さ	幅	高さ	備考	登録番号
	生活用具	針ケース		鳥骨	上腕骨	完	99	20	16.8	大型鳥	C-1 415
	生活用具	針ケース		鳥骨	上腕骨	完	80	15	11.2	大型鳥	C-1 418
	生活用具	針ケース	一部欠	鳥骨		部分	62	18	(13)	大型鳥 刻線あり	C-1 419
	生活用具	針ケース		鳥骨	上腕骨	完	56.5	13.5	8.5	大型鳥	C-1 420
	生活用具	針ケース	残欠	鳥骨		部分	(49)	(8)	(14)	大型鳥?	C-1 421
	生活用具	針ケース	残欠	鳥骨		部分	69.5	(14)	(8)	大型鳥?	C-1 422
	生活用具	針ケース	残欠	鳥骨		部分	(29)	(11)	(4)		C-1 464
294	装身具	玉		鹿角		半製品	20.5×19	7.2	17.8	大型玉	C-1 487
295	装身具	玉		鳥骨		完	15.8	φ11.5			C-1 488
296	装身具	玉		鳥骨		完	27	11	8	刻線あり	C-1 486
297	装身具	玉		ネズミザメ		完	36	34.5	13		C-1 432
302	装身具	玉		鳥骨		半製品	53.5	7	6		C-1 407
	装身具	玉		鹿角		完	24	φ7			E-1 3-4
	装身具	玉		獣骨		未製品	69.6	6.9	6	骨端あり	C-1 330
	装身具	玉		獣骨		未製品	65.8	7.8	7	骨端あり	C-1 331
	装身具	玉		鳥骨		未製品	80	4.5	4.8	骨端あり	C-1 332
	装身具	玉		獣骨		未製品	45	6	5.5	骨端あり	C-1 334
292	装身具	模造牙製品		鹿角		完	64	18.5	8.9		C-1 F26
299	装身具	平玉		スズキ	総踵骨	完	37	36.5	8	セット?	C-1 433
300	装身具	平玉		スズキ	総踵骨	完	36.5	36	7	セット?	C-1 434
301	装身具	平玉		スズキ	総踵骨	完	40	38	7.6	セット?	C-1 436
	装身具	平玉		スズキ	総踵骨	一部欠	32	30	6	セット?	C-1 442
	装身具	平玉	一部欠	スズキ	総踵骨	部分	40	39.5	7.5	セット?	C-1 435
	装身具	平玉	一部欠	スズキ	総踵骨	部分	35	(33.5)	5.5	セット?	C-1 441
	装身具	平玉		スズキ	総踵骨	完	39	38	6.5	セット?	C-1 437
	装身具	平玉		スズキ	総踵骨	完	31	29	5.5	セット?	C-1 438
	装身具	平玉		スズキ	総踵骨	完	32	30	6.5	セット?	C-1 439
	装身具	平玉		スズキ	総踵骨	完	31.4	30.5	6	セット?	C-1 440
	装身具	平玉		スズキ	総踵骨	完	29.5	29	6.5	セット?	C-1 443
	装身具	平玉		鹿角		完	39	14.1	5.4		C-1 489
	装身具	平玉		鹿角		一部欠	37.8	14	6	風化	C-1 490
	装身具	平玉		ホホジロサメ	椎骨	部分?	33.6	33	25.6		C-1 444
303	装身具	貝輪	完形	ユキノカサ?		完	51×43	3	6		C-1 423
	装身具	貝輪		タマキガイ類		部分	49×49	3.3	11		C-1 424
	装身具	貝輪		エソタマキガイ		部分	46×45	3.2	9.8		C-1 425
	装身具	貝輪		エソタマキガイ		部分	42×42	2.2	8.8		C-1 426
	装身具	貝輪		タマキガイ類		部分	(52)	(3)	3.5	破損品	C-1 427
	装身具	貝輪		タマキガイ類		部分	(44)	(3.5)	12	破損品	C-1 428
	装身具	貝輪		タマキガイ類		部分	(41)	(3)	15.5	破損品	C-1 429
	装身具	貝輪		ユキノカサ?		部分	(44)	(4)	10.3	破損品	C-1 430
	装身具	貝輪		ユキノカサ?		部分	(38)	(3.5)	10.8	破損品	C-1 431
293	装身具	腕輪	端部欠	イノシシ		部分	(61.8)	10	8.5		C-1 F27
311	装身具	腕輪		海獣骨		部分	(46.8)	12.5	1.8		C-1 485
312	装身具	腕輪	ほぼ完形	イノシシ	下顎犬歯左	完	126.5	24.5	21	462と対 孔あり 化石	C-1 463
313	装身具	腕輪	ほぼ完形	イノシシ	下顎犬歯右	完	126	25	21.5	463と対 孔あり 化石	C-1 462
	装身具	腕輪		海獣骨		部分	(61.6)	12	1.8	刻線あり	C-1 484
304	その他	骨角製品	腕輪状装飾品	エソシカ	中手・中足骨?	部分	75.1	18.5	6.2	端部に穿孔あり	C-1 479
305	その他	骨角製品	腕輪状装飾品	エソシカ	中手・中足骨?	完	73	19.8	6	端部に穿孔あり	C-1 480
306	その他	骨角製品	腕輪状装飾品	エソシカ	中手・中足骨?	部分	54	22.1	5.2	端部に穿孔あり	C-1 482
	その他	骨角製品	腕輪状装飾品	エソシカ	中手・中足骨?	完	58.3	19.5	4.3	端部に穿孔あり	C-1 481
307	その他	腰飾り?		鹿角		部分	(66.5)	17	10		C-1 476
298	その他	骨角製品	半欠	鳥骨		部分	21.8	(12.2)	7.4	栓?	E-1 6-2
308	その他	骨角製品	弓管型	鹿角		部分?	(42)	12	12.5	弓管又は栓? 弥生系	C-1 477
309	その他	骨角製品	弓管型	鹿角		部分?	(39)	(9.2)	10	弓管又は栓? 弥生系 彫刻剥落	C-1 478
310	その他	骨角製品	腕輪?	不明		部分	(57)	(21)	12.5	動物彫刻付(クマ) スプーン?	C-1 F21
264	その他	骨角製品	骨棒	鹿角		一部欠	153	21.5	30	動物彫刻付(カメ)	C-1 7
277	その他	骨角製品	骨棒 彫刻部	鹿角		部分	50.4	30	31	動物彫刻付(オサガメ)	C-1 11
	その他	骨角製品	骨棒	鹿角		部分	(70.5)	22	22.5	動物彫刻付(クマ)	C-1 9
322	その他	骨角製品	指環棒 頭部欠	鹿角		部分	(140)	13.2	12.5	先端部のみ	C-1 66
323	その他	骨角製品	指環棒 先端部	鹿角		部分	(171)	φ12		穿孔あり	C-1 67
324	その他	骨角製品	指環棒 先端欠	鹿角		半製品	(168.5)	41.6	2.8	動物彫刻付(クマ)	C-1 465
325	その他	骨角製品	指環棒	鯨骨		部分	(282)	17	10.5		C-1 17
314	その他	自然遺物		ホホジロサメ	歯	部分	(10.5)	9	3	一頭分・副葬品?	C-1 1 (1)
315	その他	自然遺物		ホホジロサメ	歯	部分	(12)	8	3	一頭分・副葬品?	C-1 1 (2)
316	その他	自然遺物		ホホジロサメ	歯	部分	(10)	8.5	3.2	一頭分・副葬品?	C-1 1 (3)
317	その他	自然遺物		ホホジロサメ	歯	部分	(14.5)	13	3	一頭分・副葬品?	C-1 1 (6)
318	その他	自然遺物		ホホジロサメ	歯	部分	(15)	12	4	一頭分・副葬品?	C-1 1 (5)
319	その他	自然遺物		ホホジロサメ	歯	部分	(15.5)	12	3.8	一頭分・副葬品?	C-1 1 (4)
320	その他	自然遺物		ホホジロサメ	歯	部分	(17)	14.5	4	一頭分・副葬品?	C-1 1 (7)
321	その他	自然遺物		ホホジロサメ	歯	部分	(24.5)	19	4.1	一頭分・副葬品?	C-1 1 (8)
	その他	自然遺物		ホホジロサメ	歯	部分	(18.2)	14.5	4.1	一頭分・副葬品?	C-1 1 (9)
	その他	自然遺物		ホホジロサメ	歯	部分	(24)	21.8	4.5	一頭分・副葬品?	C-1 1 (10)
	その他	自然遺物		ホホジロサメ	歯	部分	(20.8)	21.8	4.2	一頭分・副葬品?	C-1 1 (11)
	その他	自然遺物		ホホジロサメ	歯	完?	18.2			C-1-1の内	C-1 2
	その他	自然遺物		ホホジロサメ	歯	完?				C-1-1の内	C-1 3
	その他	自然遺物		オオノガイ			63	φ4.5		副葬品?	C-1 498
	その他	自然遺物		オオノガイ			45	φ5		副葬品?	C-1 499
	その他	自然遺物		オオノガイ			41	φ4		副葬品?	C-1 500
	その他	自然遺物		オオノガイ			46	φ5		副葬品?	C-1 501
	その他	自然遺物		オオノガイ			40.5	φ4		副葬品?	C-1 502
	その他	自然遺物	骨	不明			34.6	11	21.8		C-1 F23
	その他	自然遺物	骨	不明			36.2	15	30.8		C-1 F24
	その他	自然遺物	骨端	不明			42.2	27	17		C-1 F22
	その他	残片	不明	鹿角		部分?	(30.5)	(11)	8	焼痕あり	C-1 48

表 7

挿図No.	大分類	名称	細分類	素材	部位	完欠	長さ	幅	高さ	備考	登録番号
	その他	残片	不明	鹿角		部分?	(13.5)	φ7		穿孔・焼痕あり	C-1 56
	その他	残片	不明	鹿角		部分?	(54.7)	14.5	9.6	未製品 加工	C-1 78
	その他	残片	不明	海獣骨	肋骨	部分?	(71)	5.8	6		C-1 113
	その他	残片	不明	鹿角		部分?	(40)	7.5	9.5	未製品	C-1 131
	その他	残片	不明	海獣骨		部分?	(48.5)	φ5		海綿体のみ	C-1 132
	その他	残片	不明	不明		部分?	(14.6)	4.5	4	焼痕のある残片	C-1 152
	その他	残片	不明	鹿角		半製品	(41.2)	8.5	6.8	半製品	C-1 166
	その他	残片	不明	鹿角		部分?	36.5	7	5.5	銚頭か尖頭器の残片	C-1 167
	その他	残片	不明	鹿角		部分?	(55.2)	5.2	4.3	尖頭器残片 骨針?	C-1 244
	その他	残片	不明	鹿角		部分?	(14)	4	3.2	焼痕のある残片	C-1 248
	その他	残片	不明	獣骨		部分?	50.5	3	1.3		C-1 269
	その他	残片	不明	鹿角		部分?	(34.8)	(17.8)	5		C-1 270
	その他	残片	不明	鹿角		部分?	(34)	(7.5)	4.5	銚頭か尖頭器の残片	C-1 271
	その他	残片	不明	鹿角		部分?	(38.5)	8	6		C-1 272
	その他	残片	不明	不明		部分?	(37)	(12.5)	(10.5)	焼痕あり	C-1 273
	その他	残片	不明	不明		部分?	(39.5)	(13)	(12)		C-1 274
	その他	残片	不明	鹿角		部分?	(39)	8	7	切落 銚の先端転用品?	C-1 288
	その他	残片	不明	鹿角		部分?	(34)	9.2	6.8	切落 銚の先端転用品?	C-1 289
	その他	残片	端部欠	海獣骨		部分?	100	15.5	7.1	切入あり	C-1 294
	その他	残片	不明	鹿角		部分?	(85)	11.9	7.8	刻線・加工痕あり	C-1 296
	その他	残片	完形	海獣骨	肋骨	完	74	10.2	6	切入・刻線あり	C-1 297
	その他	残片	両端欠	鹿角		部分?	(73)	17.5	13.5	孔中途より折れる 穿孔あり	C-1 300
	その他	残片	不明	鹿角		部分?	(75)	5	3.5		C-1 308
	その他	残片	不明	獣骨		部分?	55	(6)	(2)		C-1 321
	その他	残片	先端部?	陸獣骨		部分?	(44)	(4.5)	(1.5)		C-1 324
	その他	残片	残片両端欠	鳥骨		部分?	(57)	6	4.5		C-1 382
	その他	残片	不明	鳥骨		部分?	(74)	(7)	(3.5)		C-1 385
	その他	残片	不明	鳥骨		部分?	(24.5)	4.5	3.5		C-1 388
	その他	残片	不明	鳥骨		部分?	(60)	4.8	5		C-1 401
	その他	残片	不明	鹿角		部分?	(39)	12.9	8.6		E-1 3-16
	その他	残片	不明	鹿角		部分?	(79.5)	10.5	6		E-1 3-17
	その他	残片	不明	獣骨		部分?	(62.5)	7	5		E-1 3-18
	その他	残片	不明	鹿角		部分?	(65)	17	(14)	先端切り落とし	E-1 3-20
	その他	残片	不明	鹿角		部分?	(29.8)	(3.3)	(3)	頭部?	C-1 F16
	その他	残片	不明	鹿角		部分?	(50.8)	(11)	(8)		C-1 F17
	その他	残片	不明	不明		部分?	(90.3)	5.2	4.1		C-1 F29
	その他	残片	不明	不明		部分?	(56.5)	5.2	4		C-1 F30
	その他	残片	端部のみ	鹿角		部分?	21.2	6.2	3	孔痕あり	C-1 F36
	その他	残片	不明	不明		部分?	50.2	18	8.5		C-1 F37
	その他	残片	不明	鹿角		部分?	(40.3)	16	15.5		C-1 F39

表の見方 (凡例)

挿図No. 本図版に掲載した番号である

長 [] つきは欠損品

第分類 資料を便宜上区別した

幅

名称 使用道具としての名称として分類

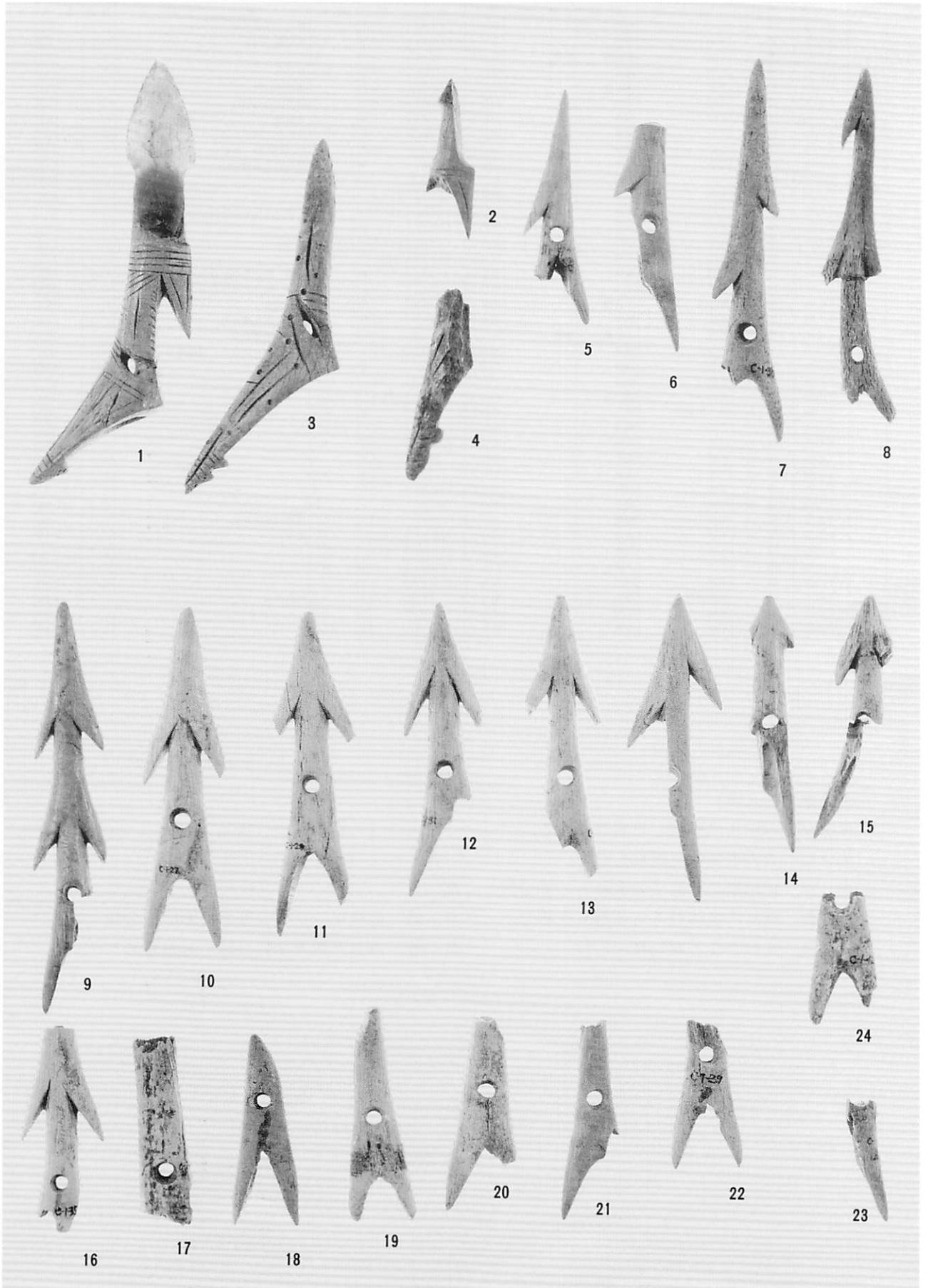
高さ

細分類 個別の名称及其の状態も含めた

登録 能登川コレクションにおける分類

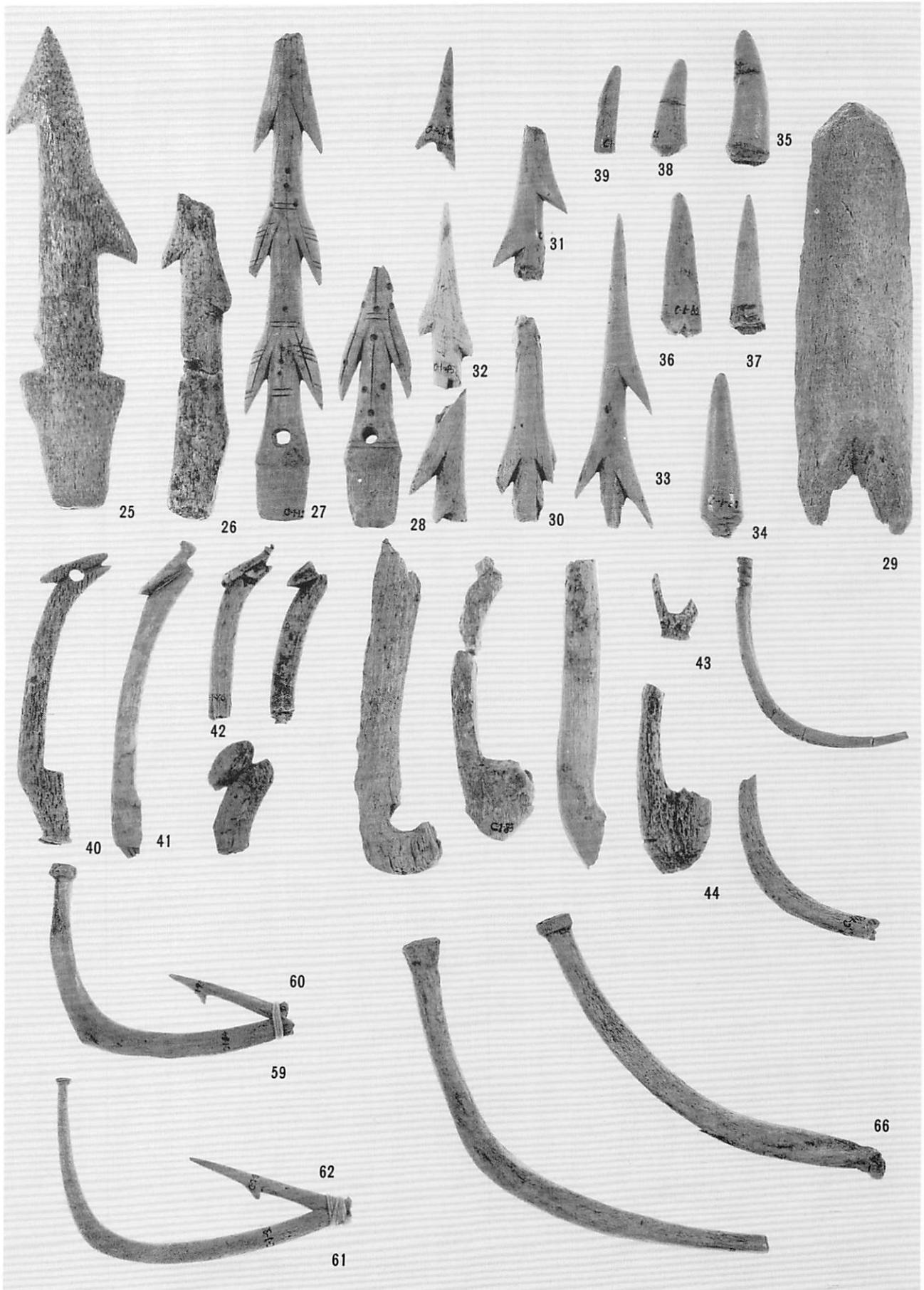
材質 素材となる動物種及部位

番号 市立函館博物館目録の登録番号



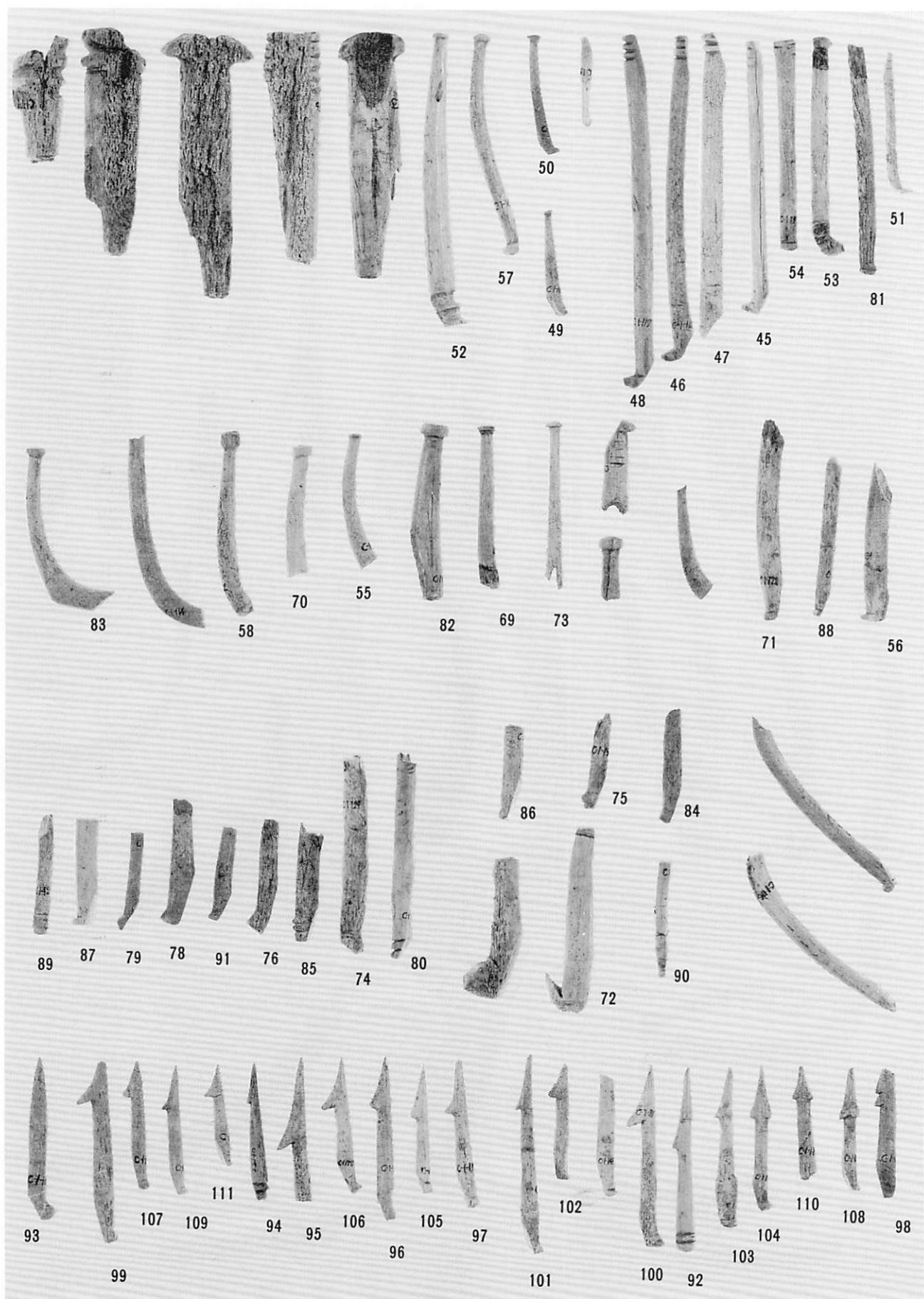
写真図版1 銚頭

図の番号は挿図Noと一致します



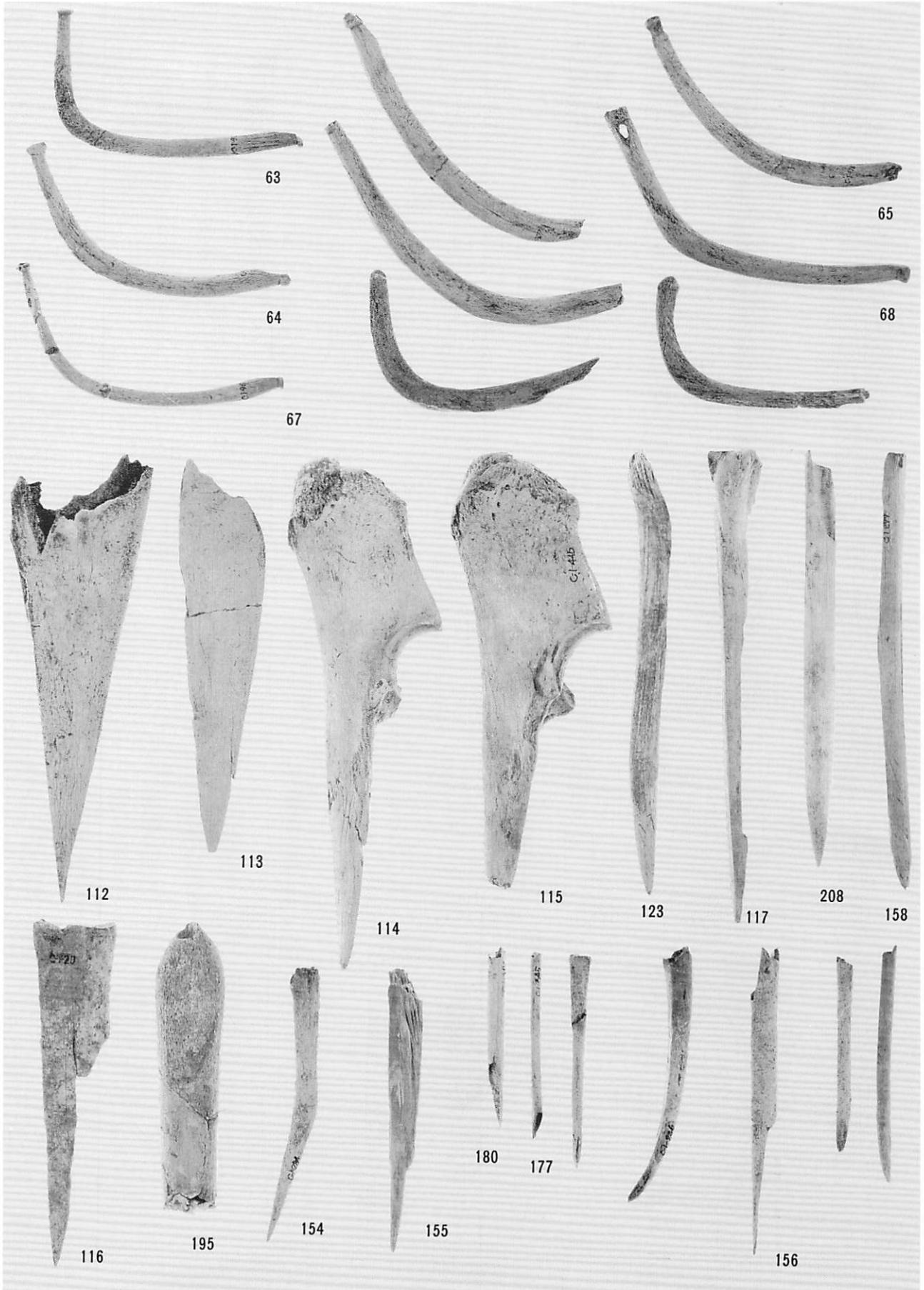
写真図版 2 銚頭・釣針

図の番号は挿図No.と一致します

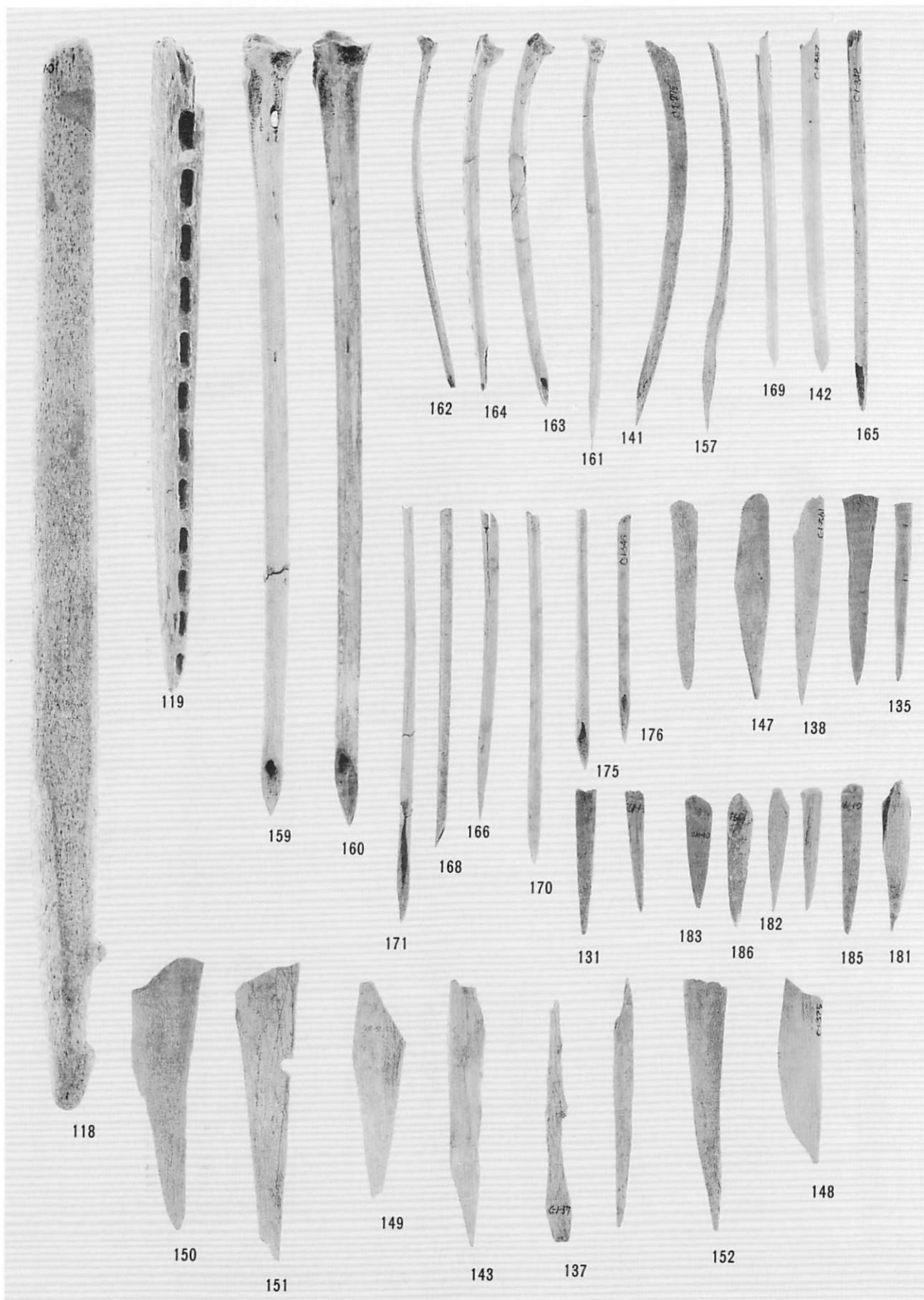


写真図版3 釣針

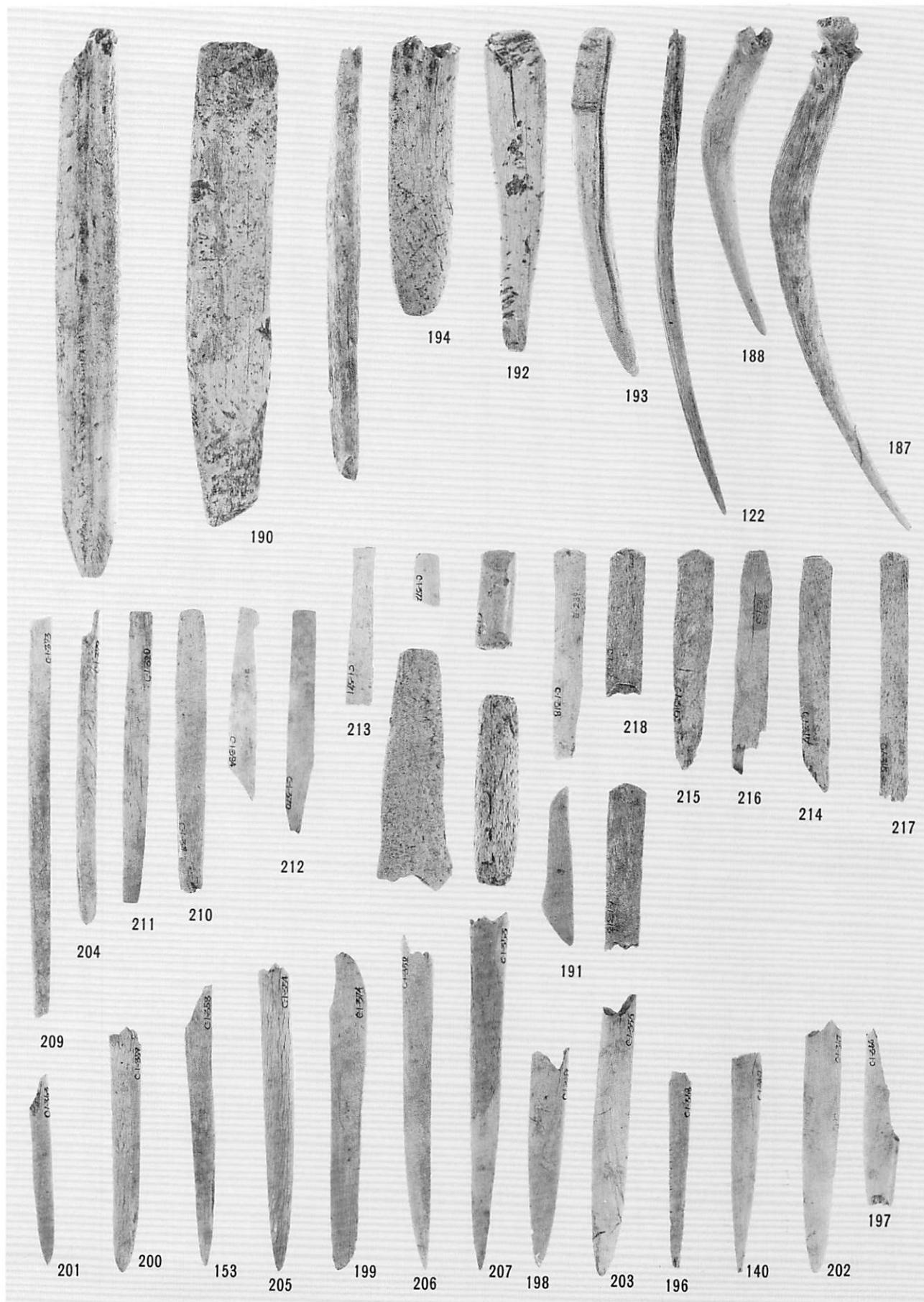
図の番号は挿図Noと一致します



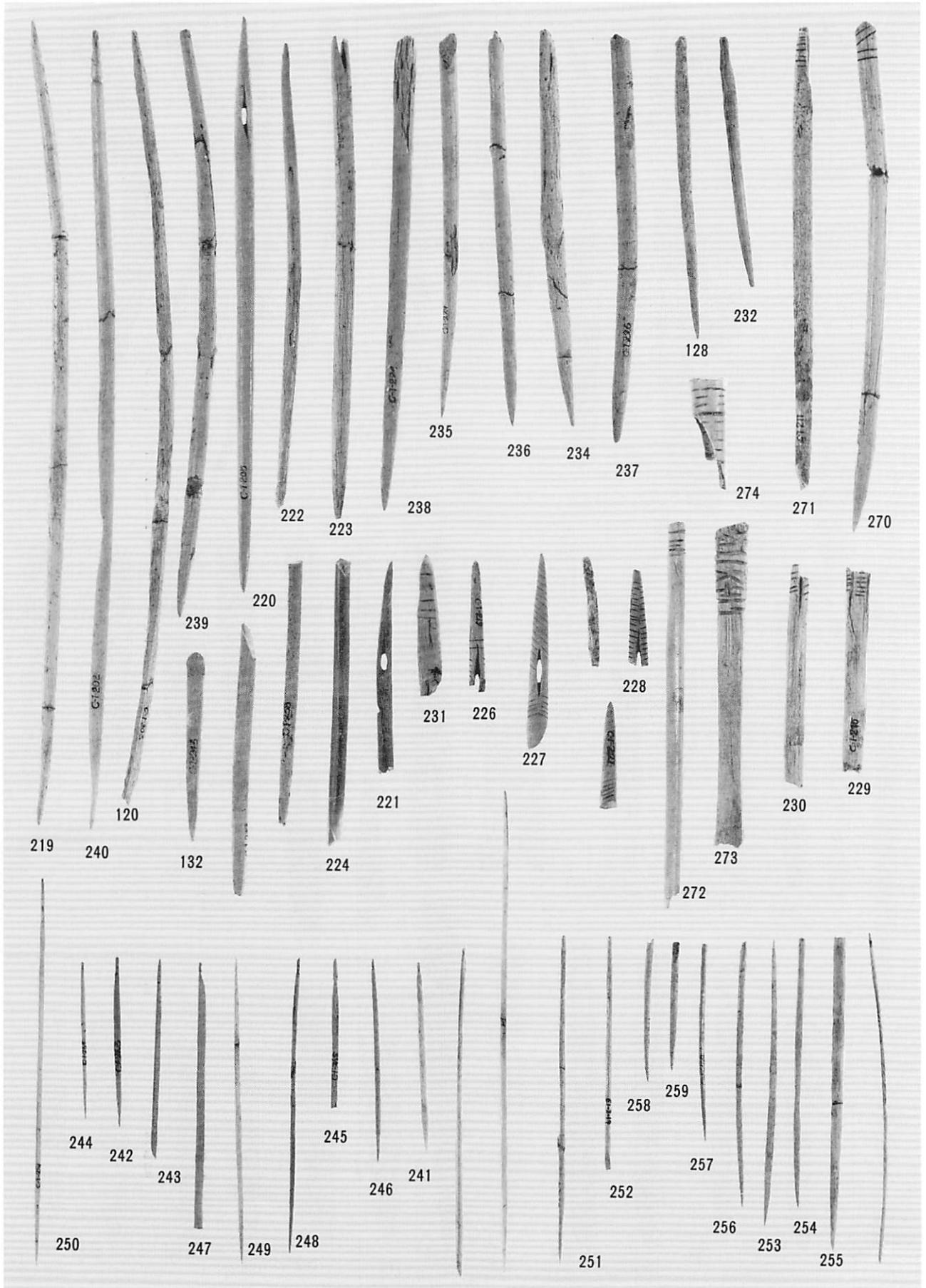
写真図版4 釣針・刺突具 図の番号は挿図No.と一致します



写真図版 5 刺突具 図の番号は挿図Noと一致します

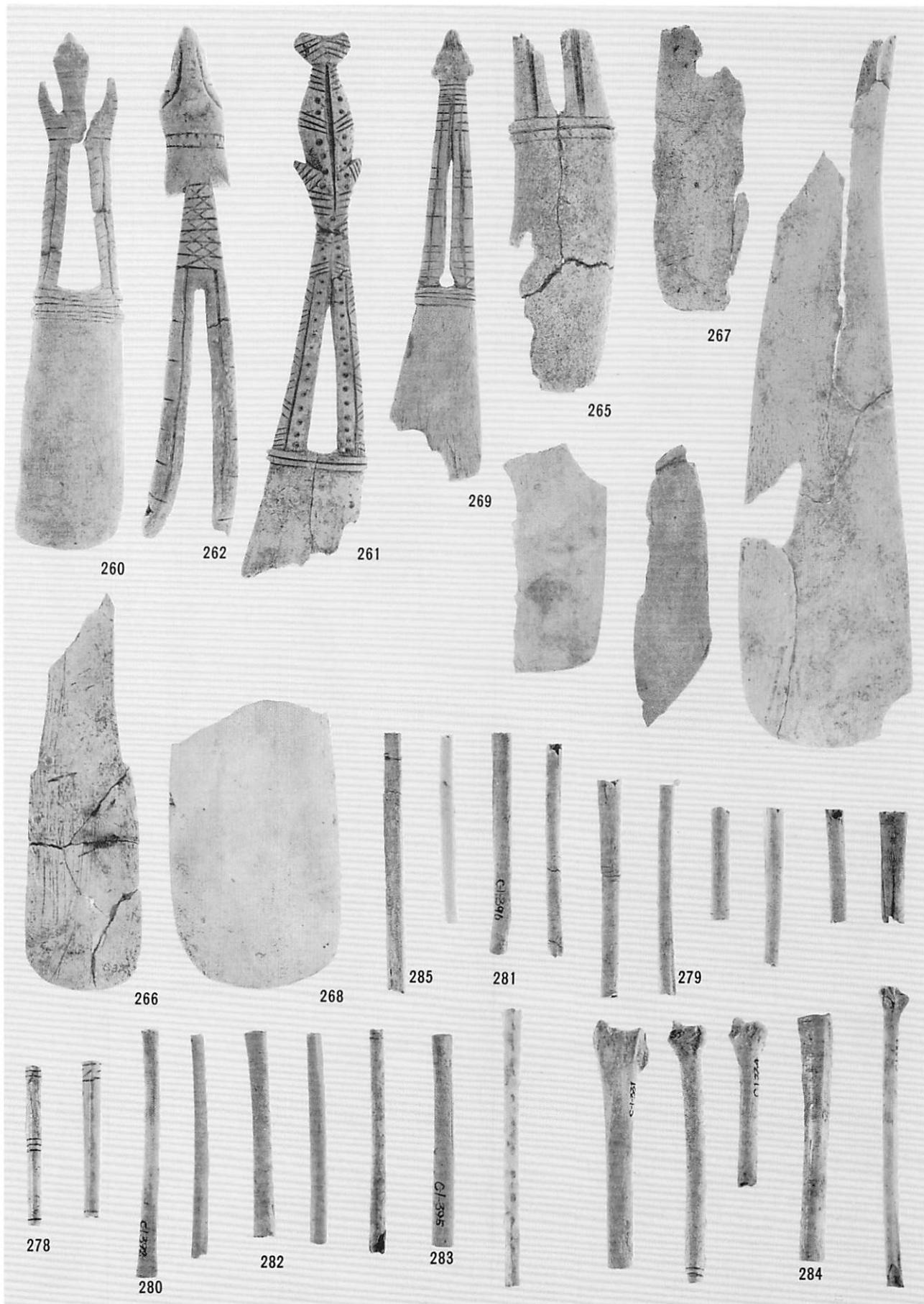


写真図版 6 へら 図の番号は挿図No.と一致します

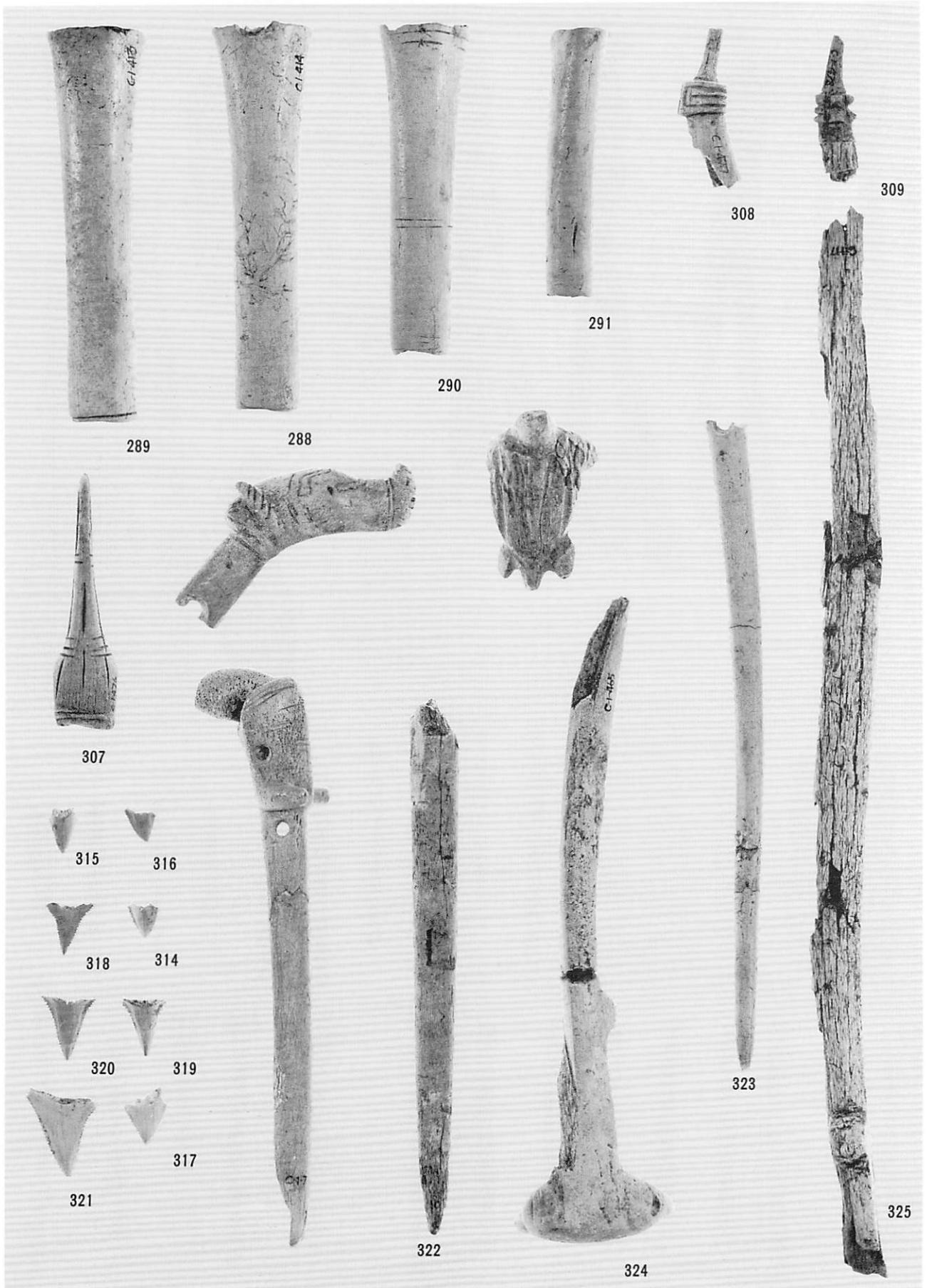


写真図版7 骨針・ヘアーピン

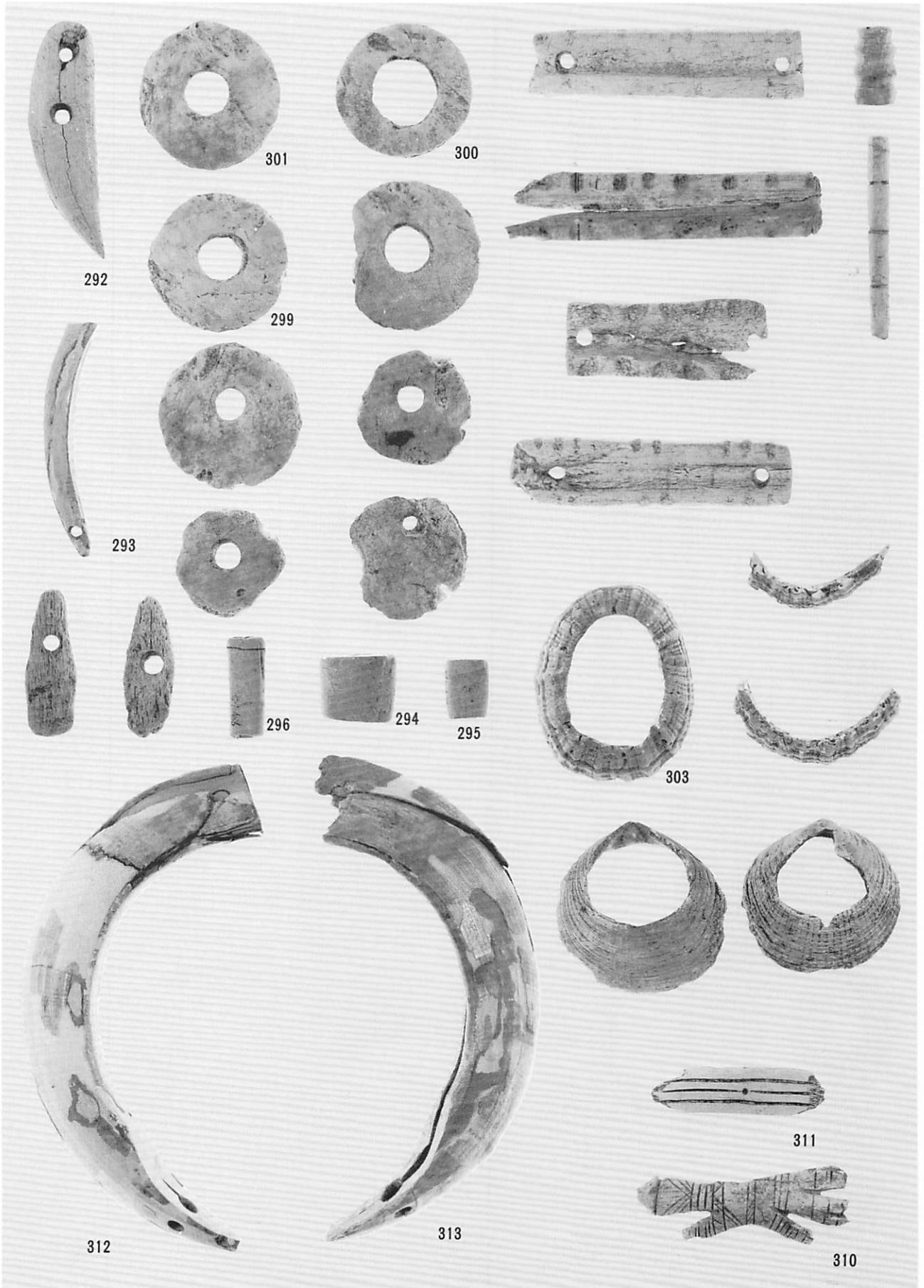
図の番号は挿図No.と一致します



写真図版 8 スプーン・針ケース 図の番号は挿図No.と一致します

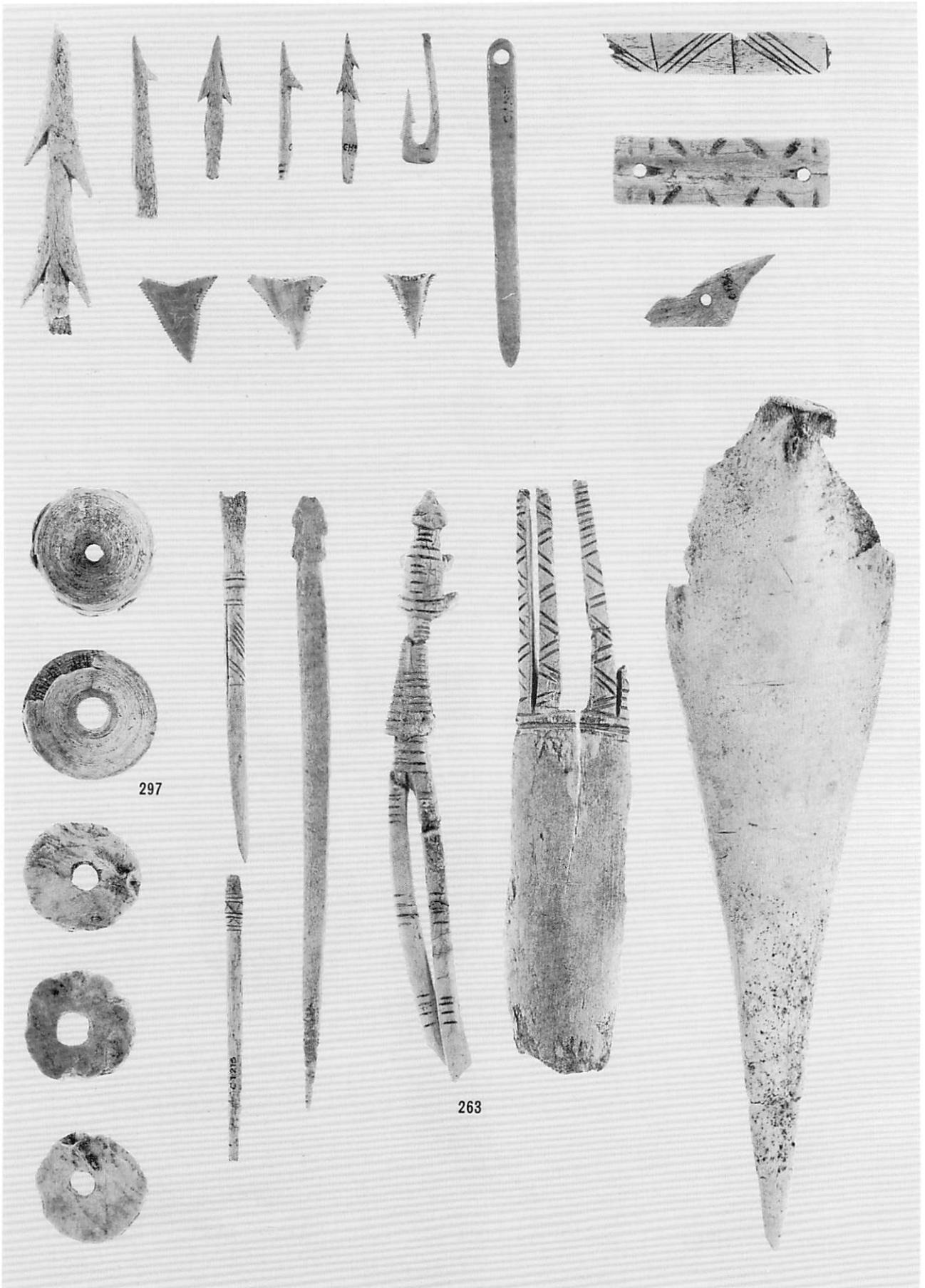


写真図版9 針ケース・骨角製品 他 図の番号は挿図No.と一致します



写真図版10 装身具

図の番号は挿図No.と一致します



写真図版11 装身具 図の番号は挿図No.と一致します

昭和十一年

日本自治会ヤマト支、昭和十一年、封鎖支

「ヤ・ホス」支、昭和十一年、立見書

「東谷川第一堤防」昭和十一年、封鎖支

「日本赤十字社」昭和十一年、封鎖支

「日本赤十字社」昭和十一年、封鎖支

「東京の昭和聯合青年会」昭和十一年、封鎖支

「新友会」昭和十一年、封鎖支

「ヤマト支」昭和十一年、封鎖支

〔註〕

- (1) 「概説・日本の広告美術」 山名文夫（『日本の広告美術―明治・大正・昭和1 ポスター』昭和四三年 美術出版社）。
- (2) (1)に同じ。
- (3) 「北海タイムス」 大正九年七月二一日。
- (4) 「北海タイムス」 大正二二年四月一六日、五月一七日、二〇日、二一日、二三日、二五日、二七日、二八日参照。大正二二年五月二〇日から二八日にかけて開催された。
- (5) 「北海タイムス」 昭和九年六月三〇日。
- (6) (5)に同じ。
- (7) 『北海道大百科事典（上）』昭和五六年 北海道新聞社。
- (8) 「北海タイムス」 昭和九年六月二二日。
- (9) 表1は『小樽新聞廣告圖案・寫眞選集』昭和五年 小樽新聞社、「北海タイムス」昭和五年七月一九日、昭和八年四月二〇日、昭和一〇年一月一日、昭和一一年一月一九日、「小樽新聞」昭和五年四月一八日、同九月一〇日夕刊、同一月一七日夕刊、昭和七年八月二七日夕刊、同二月二日の各ポスター関連記事を基に作成した。
- (10) 越崎宗一『北海道寫眞文化史』昭和二一年 新星社、岩佐博敏『北海道寫眞百年史』昭和四五年 札幌写真師会。
- (11) 「小樽新聞」 昭和六年九月一五日。
- (12) 『廣告年鑑』昭和一二年 萬年社。なお、三越札幌支店は終戦後アメリカ軍に接収されており、戦前の展覧会資料目録などは保存されていなかった。
- (13) 「北海タイムス」 昭和七年九月二一日、二五日、一〇月五日。
- (14) 本郷新「北海タイムス」 昭和七年一〇月二日。
- (15) 「北海タイムス」 昭和八年八月二〇日。
- (16) 「北海タイムス」 昭和九年六月三〇日。
- (17) (16)に同じ。
- (18) 「北海タイムス」 昭和九年七月二一日。
- (19) 「北海タイムス」 昭和九年八月四日。
- (20) 「北海タイムス」 昭和一〇年五月八日。
- (21) 「北海タイムス」 昭和一〇年八月一日、二日。
- (22) 「北海タイムス」 昭和一一年一月一九日。
- (23) 「北海タイムス」 昭和一一年五月二四日。
- (24) (1)に同じ。
- (25) 「北海タイムス」 昭和一三年二月八日。
- (26) 「北海タイムス」 昭和一四年三月一七日、五月九日、一〇日。
- (27) 「北海タイムス」 昭和一四年八月三〇日。
- (28) 『北海道大百科事典（上）』昭和五六年 北海道新聞社。栗谷川健一は北海道商業美術家協会の結成を「1933年（昭和8）」としているが、第一回展が昭和七年であり、少なくとも昭和七年以前の結成であることが言える。昭和一六年を最後としているが、昭和一四年の展覧会もまた「国策強調ポスター」展であったので、二年のずれはあるが最後の展覧会であった可能性もある。
- (29) 「小樽新聞」 昭和七年九月一日夕刊、「北海タイムス」 昭和七年九月二七日夕刊。「詭辯を弄してやまざる北海石版所圖案部主任大坂儀四郎氏」と以前所屬していた其水堂から手厳しく非難されている。

〔その他参考文献〕

- 『株式会社三越85年の記録』平成二年 三越
- 『東京の印刷組合百年史』平成三年 印刷組合百年史刊行委員会
- 『日本石版版画の思い出』平成四年 印刷学会出版部
- 『日本の石版画』昭和四二年 美術出版社
- 『杉浦非水展図録』平成六年 たばこと塩の博物館
- 『栗谷川健一展図録』平成六年 札幌芸術の森
- 『ザ・ポスター』昭和四八年 立風書房
- 『日本広告デザイン史』昭和五一年 技報堂

〔たばこ〕

No	資料名	印刷所	サイズ・点数	備考(制作年・原画者・広告主他)
208	北海道観光たばこ CHERRY 大日本印刷株式会社		364×514・2点	(株)大橋デザイン 日本専売公社札幌
209	国産優良構寸		536×378	神戸鈴木商店

〔火災・震災〕

No	資料名	印刷所	サイズ・点数	備考(制作年・原画者・広告主他)
210	火防実行函館區民大會		539×392	函館火災豫防組合聯合會他
211	火の用心	東京大江印刷株式会社	540×226	東京市
212	火の用心	東京株式会社秀英舎	605×458	昭和4年「岡田、三、」(勸)日本消防協會
213	火の用心	東京中屋三間印刷所株式会社	775×521	「ZEN」(勸)日本消防協會他
214	火の用心		380×135	(勸)大日本消防協會他
215	火の用心	函館市銀座通り辻オフセット印刷	532×375・2点	昭和5年 函館火災豫防組合聯合會
216	火の用心	エビス町・辻オフセット印刷所	640×472・2点	昭和5年 函館火災豫防組合聯合會
217	火の用心	函館 辻オフセット印刷所	640×470・2点	昭和6年 函館火災豫防組合聯合會
218	火の用心	函館辻印刷所	620×450・2点	昭和7年 函館火災豫防組合聯合會
219	お互に火の用心	ハコー印刷會社	795×530	昭和11年 函館市火災豫防組合聯合會
220	出ずな火事!		347×760・4点	函館火災豫防組合聯合會
221	火の用心	東陽社	770×347・3点	函館警察署他
222	火の用心	辻オフセット印刷	765×560	函館警察署他
223	今日も火の用心	札幌三田印刷所	770×531	北海道廳保安課他
224	火の用心	東京・盛榮堂	756×532	樺太廳警察部
225	山火注意		740×528	(勸)樺太山火防止協會
226	恐るべき山火事	凸版印刷株式会社	610×452・2点	昭和12年 帝室林野局
227	火事知らず安全火笠		553×270	中央教化團體聯合會他
228	九月一日大震災九周年		527×363	「NISINO」 中央教化團體聯合會他
229	三月廿一日 つ・しみの日		795×547・3点	昭和12年 函館地方神職會他
230	三月廿一日 つ・しみの日		543×393・2点	昭和13年 北海道神社協會支部他
231	つ・しみの日三月廿一日大火記念行事		394×550	昭和13年 函館市
232	3月21日 つ・しみの日		790×545	函館地方神職會他
233	第十一回全道防火デー		396×547・2点	昭和13年 函館市火災豫防組合聯合會
234	中央火災傷害保険株式会社		602×453	
235	神戸海上運送火災保険株式会社	大江印刷株式会社	900×604	
236	神戸海上運送火災保険株式会社	東京三間印刷所	765×523	
237	共同火災保険株式会社		915×618	「カナヤ」 多田北島

〔その他〕

No	資料名	印刷所	サイズ・点数	備考(制作年・原画者・広告主他)
238	青森特産ひば材	東京二葉印刷所	1077×388	青森県ひば材協會 青森営林局
239	秋田杉	日本橋區呉服橋ヒロセ興業社	1075×377	昭和9年 秋田製板同業組合
240	コインタイヤ他	大阪市森川印刷所	1065×770	大阪今橋米井商店
241	シガレットスタンド		530×379	株式会社佐々木商會
242	米穀馬糧商 佐渡谷商店		745×260	大正6年 大正六巳年略曆付
243	いなか塩から		525×259	函館鮎淵町ホソイ商店
244	八千代いか他		783×530	函館市製造元細居商店
245	新案ビスケット		523×263	函館元祖 榮泉堂
246	雑貨・売薬 山本徳次郎商店		783×412	
247	美術はきもの 森田商店		531×380	昭和12年 函館蓬萊町
248	美術はきもの 森田商店		760×525	函館蓬萊町
249	小西商店		775×360	函館區地藏町廿三番地
250	喰麵麩		760×525	函館區汐留町養和軒
251	足袋仕立卸 大津屋太平商店		739×258	函館區相生町八十七番地
252	雑貨商 仙臺屋		767×353・2点	

〔呉服店・百貨店〕

No	資料名	印刷所	サイズ・点数	備考(制作年・原画者・広告主他)
154	丸井今井呉服店吉例夏物大賣出し		780×358	
155	丸井今井呉服店秋衣賣出し		788×363	
156	丸井今井呉服店夏衣大賣出し		793×362	
157	丸井今井呉服店吉例冬衣大賣出し		792×363	
158	丸井今井呉服店 新築の札幌	東京三間印刷所	910×604	
159	丸井今井呉服店	東京三間印刷所	923×603	末廣町丸井今井呉服店冬物品案内付
160	丸井今井呉服店歳末大賣出し	札幌陽明堂	795×550・2点	
161	丸井今井大光作五月人形陳列		751×528	「ふちろ」 弘告社浴場部認印
162	三越呉服店七美人かさね写真	東京印刷株式会社	887×622・2点	明治43年 小川一眞
163	東京三越呉服店上代美人	東京三間印刷所	1060×757	大正2年 平岡権八郎
164	三越呉服店	東京三間印刷所	900×751	大正2年 吉田秋光
165	三越呉服店新館落成	東京三間印刷所	1079×768	大正3年 杉浦非水
166	東京三越呉服店エンゼル	東京三間印刷所	1070×768	大正4年 杉浦非水
167	三越呉服店		217×158	大正4年頃
168	三越呉服店	三間印刷所	1050×735	大正4年頃 「TM」
169	たかしまや	東京銀座三間印刷所	908×620	
170	たかしまや飯田呉服店	東京銀座三間印刷所	1070×765	
171	名古屋東京いとう呉服店	東京三間印刷所	1052×765	「金洲」
172	大丸呉服店	アルモ印刷合資会社	1072×743	「蕉園」
173	大阪大丸呉服店浴衣會		760×520	
174	東京今川橋松屋呉服店	東京今川橋精美堂	1069×767	
175	東京今川橋松屋呉服店	東京三間印刷所	1046×747	
176	京今川橋松屋呉服店	東京三間印刷所	1060×756	「□川きよ」
177	金森森屋百貨店遠州織物宣傳大會		744×522	昭和4年 弘告社印
178	棒二森屋	東京凸版印刷株式会社	1064×768	昭和11年 弘告社浴場部認印 昭和12年10月22日津軽要素司司令部検閲済
179	棒二森屋 大光作五月人形陳列凸版印刷株式会社		763×533・2点	「模清忠筆」

〔たばこ〕

No	資料名	印刷所	サイズ・点数	備考(制作年・原画者・広告主他)
180	米国最良煙草オールド		795×255	明治36年頃
181	米国最良煙草オールド		円形直径333	
182	米国最良煙草オールド		543×355	
183	米国最良煙草オールド		円形直径331	
184	アッキス		菱形470×470	明治36,7年頃
185	パイプケーキ	福德社杉野石印	787×270	製造元東京市合資会社製菓部
186	御大典記念八千代		785×265・2点	
187	花雲井		615×440	製造元常陸太田豊田商店
188	愛国花雲井 辨慶		533×375	常陸太田沼知商會謹製
189	露西亞形紙巻煙草		530×405	製造元東京浅草森田商店
190	シルヴァーライト	東京渥美堂石印	530×401	明治36年頃 製造元千葉商店
191	新製巻煙草 千種	東京渥美堂渡邊石印	617×446	製造元千葉商店
192	牡丹煙草		610×445	製造元東京銀座千葉商店
193	牡丹煙草	東京渥美堂渡邊石印	589×440	明治36年頃
194	牡丹煙草		587×446	明治36,7年頃 千葉商店
195	牡丹煙草 蓬萊	東京渥美堂渡邊石印	619×444	製造元千葉商店
196	忠勇	東京泰錦堂石印	740×509	株式会社村井兄弟商會
197	ホーニー巻煙草	J.OTTMANN LITH.CO.PUCK BLDG.N.Y.	757×459	京都村井兄弟商會製造
198	天狗煙草恭賀新年	神田區鍋町有山石印	530×385	明治37年正月 製造元岩谷商會 明治37年略歴付
199	ルビー	東京神田有山	613×285	
200	ビーコック	日本京都東洋印刷	729×513	巴里万国博覽會金賞受賞
201	ピンヘッド		728×508	明治36年頃
202	ピンヘッド		菱形470×470	明治36,7年頃
203	ピンヘッド		775×265	明治37年頃
204	ホーク		785×355	東京合名會社木村商店製造
205	上等巻 マニラ紙巻		540×410	
206	大演習記念煙草チェリー		535×390	昭和11年 煙草小賣組合聯合會
207	S Lチェリー		364×514	日本専売公社

〔布・織物〕

No.	資料名	印刷所	サイズ・点数	備考(制作年・原画者・広告主他)
103	伊勢崎銘仙千代田御召	東京大日本印刷株式会社	916×620	伊勢崎織物同業組合
104	八王子織物		882×583	八王子織物同業組合
105	八王子織物	東京銀座アポロ社	1051×760	「スギサカ」 八王子織物同業組合
106	洋犬セル	精版印刷株式会社	1060×768	「Mitani」 地蔵町 [㊦] 宮田呉服店 弘告社浴場部認印
107	サムライ兄弟商會	函館 井筒石版所	543×789	

〔味噌・醤油・酒・製糖〕

No.	資料名	印刷所	サイズ・点数	備考(制作年・原画者・広告主他)
108	最上醤油カギタイ	東京浜町三吉田印刷所石印	785×528	下總銚子港 深井吉兵衛醸造
109	金久三年味噌		755×532	發賣元 [㊦] 宮崎味噌製造場 函館區旭町
110	金久三年味噌		760×353	[㊦] 宮崎發賣
111	金久三年味噌		787×530	[㊦] 宮崎吟製
112	金久三年味噌		784×532・3点	函館 [㊦] 宮崎味噌製造場
113	金久三年味噌		786×532	函館 [㊦] 宮崎
114	金久三年味噌		780×530	函館宮崎發賣
115	金久味噌		765×530	函館區旭町 [㊦] 宮崎味噌製造場
116	金久三年味噌		767×534	[㊦] 宮崎發賣
117	金久三年味噌		760×525	[㊦] 宮崎發賣
118	金久三年味噌		780×530・2点	函館 [㊦] 宮崎
119	金久三年味噌		783×530	
120	金久三年味噌		761×528	函館旭町宮崎味噌製造場發賣
121	金久三年味噌		523×260	
122	金久三年味噌		767×351	
123	金久三年味噌		378×521	
124	金久三年味噌		788×358	
125	マルモ醤油 [㊦]	山形光陽堂豊田印刷所	794×540	「華秋」 醸造元最上合名會社
126	最上醤油	東京浜町吉田印行 光文堂	790×540	大正5年 千葉縣野田町 茂木佐平治醸造
127	味噌醤油製造卸 [㊦] 茅原商店		755×527	函館區西川町
128	赤玉ポートワイン	精版印刷株式会社	989×454	大正2年「Ai.Takahime」
129	銀釜泉正宗	大阪神田原色印刷所・精版印刷株式会社	909×622	灘泉本家吟醸
130	キリンレモン	精版印刷會社	917×609	キリン麦酒株式会社
131	正宗	大阪中田印刷所	1068×380	
132	白鹿		909×600	「舞」
133	清酒金露	大阪中田印刷所	870×598	「町田」 大塚醸
134	銘酒宇賀の一		772×357	醸造元 [㊦] 中村商店 函館區鶴岡町
135	清酒北長	函館ハコー印刷所	757×530	函館市全合名會社小森本家 弘告社印
136	大日本製糖株式会社	精版印刷株式会社	916×624	
137	株式会社明治屋	東京神田オフセット印刷合名會社	883×600	
138	明治製糖株式会社	紙工印刷日本紙器製造	898×607	大正7年 大正七年略曆付
139	臺灣製糖株式会社	東京圖案社	910×607	大正7年 大正七年七曜表付
140	森永ミルクチョコレート 森永ミルクキャンディ 凸版印刷株式会社		830×604	「By,Y.Saito」 森永製菓株式会社

〔呉服店・百貨店〕

No.	資料名	印刷所	サイズ・点数	備考(制作年・原画者・広告主他)
141	白木屋呉服店	東京株式会社秀英舎	1080×765	
142	東京日本橋白木屋呉服店	東洋印刷株式会社	1070×754	「上フ」
143	東京白木屋呉服店出張賣出し		1003×390	蓬萊町小林亭
144	白木屋呉服店	株式会社秀英舎	1053×755	「TM」
145	丸井今井呉服店	東京三間印刷所	1060×755	
146	丸井今井大演習記念婚儀展	東京大日本印刷株式会社	1062×773・2点	昭和11年「富喬」 弘告社浴場部認印
147	丸井今井新學期用品大賣出し	東京大日本印刷株式会社	910×608	昭和12年「情重」 末廣町丸井今井
148	札幌丸井今井増築落成	東京大日本印刷株式会社	1065×772・3点	昭和13年「富喬」
149	丸井今井新學期用品大賣出し	大日本印刷株式会社	909×615	函館弘告社31.3.31浴部¥2000
150	丸井呉服店高級呉服大賣出し		1175×540	昭和13年 函館警察署届出検閲済 昭和13年11月7日
151	丸井今井呉服店		1038×765	
152	函館丸井今井呉服店西陣織物宣傳大會		923×625	西陣織物同業組合主催 弘告社印
153	今井呉服店夏物大賣出し		793×550	弘告社印

〔化粧品・薬品〕

No.	資料名	印刷所	サイズ・点数	備考(制作年・原画者・広告主他)
052	レート東京大演藝會	平尾印刷部	925×638	
053	レートクリーム	東京神田中央印刷社	920×615	昭和12年 函館毎日新聞 創刊六十周年記念 弘吉社印
054	レート白粉	東京神田中央印刷社	1077×748	東京 平尾贊平
055	レート石鹼	第一グラフィア印刷株式会社	760×532	東京 平尾贊平商店
056	老牌金剛石牙粉	東京栄光社	789×530	大正4年 日本東京平尾贊平鑒製
057	クラブ歯磨宣伝売出し		780×536	
058	クラブ美身クリーム		785×537	昭和9年 中山太陽堂
059	クラブ美身クリーム		752×526	昭和12年 函館松竹座
060	クラブ美身クリーム		758×530	昭和12年 全道映画館招待 弘吉社印
061	クラブ美身クリーム	東京大阪 森川印刷所	765×530	クラブ白粉本店
062	クラブ美身クリーム	精版印刷株式会社	767×525	弘吉社印
063	クラブ美の素石鹼		747×352	
064	ゴコー整髪料	大阪凸版印刷株式会社	905×610	本舗昇英堂
065	御香椿油	精版印刷株式会社	905×626	本舗昇英堂
066	タバコのみ歯磨スモカ		421×310	「T.gan」
067	化粧品とおクスリ春の福引大売出し		867×603	昭和12年 函館化粧品統制聯盟他 弘吉社印
068	常乃花石鹼	金谷印刷所	750×258	サンスタデオ 東京 本舗 龜岡龜王堂
069	アルファ自動研安全剃刀	大阪 阪本印刷所	535×390	
070	レコード石鹼	東洋紙工印刷株式会社	387×131	S.Yスタンダード油脂 三忠印
071	レコード石鹼	東京・秀英堂紙工印刷所	645×502	多田北島 合同油脂
072	レコード石鹼		744×272	スタンダード油脂 三忠印
073	レコード石鹼	東洋紙工印刷株式会社	750×350	東京スタンダード油脂 三忠印
074	鶴々卵石鹼		733×250	東京 淺井支店
075	仁丹の靈泉	精版印刷株式会社	1056×376	
076	バラヤかみ洗粉	函館ハコー印刷所	747×250	
077	化粧品袋物類白牡丹商舖		774×360	函館蓬萊町 千秋庵隣

〔ふとん・かや〕

No.	資料名	印刷所	サイズ・点数	備考(制作年・原画者・広告主他)
078	御誂ふとん		385×536	東京日本橋角 西川
079	中元福引大賣出し		793×546	西川
080	中元福引大賣出し		793×550	日本橋角 西川
081	ふとんと毛布		593×799	日本橋角 西川
082	日本橋印本濱かや他		762×523	「貫川写 廣」 東京日本橋 發賣元西川商店
083	かやは麻	東京銀座細川活版所	903×611	多田北島 西川
084	コドモ印蚊帳宣傳福引大賣出し弘吉社石版部		794×545	河村蒲團店
085	河村製綿所 河村織右衛門商店		765×530	函館區新川町三〇九

〔布・織物〕

No.	資料名	印刷所	サイズ・点数	備考(制作年・原画者・広告主他)
086	江戸自慢御裏地	大阪東京上海精版印刷	918×620	「MF升丸 染□」
087	足利本銘仙	(足利)市川印刷所	906×615	足利銘仙會
088	足利本銘仙	東京精版印刷株式会社	910×611	「秀峰 桔梗花」足利銘仙會
089	全國染織機械□□會	栃木縣足利町精文堂石版印刷所	921×602	大正7年 栃木縣足利織物同業組合
090	本場秩父銘仙	東京三間印刷所	915×617	秩父絹織物同業組合
091	本場秩父銘仙	精版印刷株式会社	903×611	秩父絹織物同業組合
092	秩父銘仙	大阪精版印刷株式会社	910×611・2点	秩父織物工業組合
093	秩父銘仙	精版印刷株式会社	905×611	秩父織物工業組合
094	本場秩父特許やよい模様	東京アポロ社	756×520	若林織物工場
095	フレッシュ絹上布	大阪精版印刷株式会社	911×612・4点	
096	西陣織物		528×379	西陣織物同業組合
097	汽車印メリヤス	大阪紙徳文庫店	775×525	
098	蝶矢印シャツ		780×533	
099	村山大島紬	銀座アポロ社	915×618	
100	村山大島紬		921×630	村山織物同業組合
101	伊勢崎銘仙	日清印刷株式会社	917×622	伊勢崎織物同業組合
102	伊勢崎銘仙千代田御召	東京大日本印刷株式会社	913×619	伊勢崎織物同業組合

表2 函館図書館所蔵ポスター一覧表

〔電気・ガス・放送〕				
No.	資料名	印刷所	サイズ・点数	備考(制作年・原画者・広告主他)
001	北海道瓦斯株式会社	東京三間印刷所	755×530	
002	發明振興	凸版印刷株式会社	765×540	「樵山」 特許法施行五十年記念會
003	浅野物産株式会社北海道出張所	北海道商業美術家協会印刷部	914×620	昭和9年「ギンロウ」
004	ニッポノホン	東京芝神明小島印刷	763×540	日本蓄音器商會
005	ニッポノホン	東京三間印刷所	1056×760	「紅花」 日本蓄音器商會
006	ヒコーキフジサンレコード		764×340	合同蓄音器株式会社
007	J O I K	東京銀座三間印刷所	759×337	札幌放送局
008	J O I K	明治印刷株式会社	1065×774・2点	「唯」
009	事変ニュース放送特設	札幌金井印刷所	774×345	札幌中央・函館・旭川・帯廣放送局
010	電気週間		770×345	(注)電気協会北海道支部
011	電気週間		618×452・2点	(注)電気協会北海道支部
012	ジー・エス蓄電池		520×377	島津製作所
013	電気料値下		550×495	電気料値下市民權益擁護期成同盟會
014	オヤコ電球		757×345・2点	エビス電球株式会社
015	親子電球	東京井口印刷合名會社	911×309・2点	エビス電球株式会社
016	エビスランプ オヤコランプ	Japan Tokyo.Yoinsha Printing.Co.	770×530	エビス電球株式会社
017	ナショナル電球	大阪株式会社印刷工廠	762×535	ナショナル電球株式会社 弘告社印
018	A E G N I T R A	東京文祥堂	740×523	
019	A E G N I T R A	東京文祥堂	790×537	
020	エジソン	東京銀座三間印刷所	788×546	昭和4年 電燈五拾年記念會
021	燈火の變遷圖解	東京銀座三間印刷所	920×610・2点	昭和4年 電燈五拾年記念會
022	千代田ボール		777×258・7点	昭和8年 東京九段岩見照明商會
023	明視スタンド		607×455	昭和12年 東京電気株式会社照明課推奨
024	更正ルナ硝子ボール		770×528・3点	株式会社島田硝子製造所
025	晝光色硝子セレストガラス		770×530・5点	株式会社島田硝子製造所
026	和洋ボール	大阪印刷工廠	758×531・5点	株式会社島田硝子製造所
〔調理器具・暖房器具〕				
No.	資料名	印刷所	サイズ・点数	備考(制作年・原画者・広告主他)
027	白雪コンロ		620×310	東洋コンロ工業所 弘告社浴場部認印
028	万能レンジ	大阪印刷株式会社	620×470	大阪中村新吉商店 特約店函館レンジ商會
029	天女印高級飯蒸器	(KASEISHA)	736×516	天女印趾瑠製品販売店
030	二重寶標準飯蒸		773×355	大阪平和會
031	石油厨爐(オイルクックストーブ)		785×510	紐育スタンダード石油會社 三忠印
032	柄杓覆(ヒシヤクカケ)		778×536	永井商店
033	浅井式湯たんぼ	大阪永井白英堂印刷所	764×530	大阪浅井製作所
034	文化暖爐(ひなしあんか)		790×548	北海道樺太發賣元有田商店 弘告社印
035	萩原式安全ストーブ		770×360	發賣元阿部自轉車店 特約店谷地頭町山田屋
036	ピースストーブ		775×350	函館特約取賣所川口屋銃砲火藥店
037	センオーストーブ	大阪日本版畫印刷合資會社	926×626	
038	センオーストーブ		903×594	「SEIICHI」
039	センオーストーブ	日本版畫印刷合資會社	912×620・3点	
040	天下ストーブ		768×347	埼玉県川口市榎六総本店
041	榎六ストーブ		770×525	埼玉県川口市榎六総本店
042	榎六ストーブ		743×540	發賣元株式会社湯淺七左衛門商店
043	フクロクストーブ	凸版印刷株式会社	1070×770・2点	
044	フクロクストーブ	凸版印刷株式会社	1070×770	昭和12年「YOKOE」
045	フクロクストーブ	凸版印刷株式会社	1063×770・3点	
046	フクロクストーブ	凸版印刷株式会社	1055×754	
047	三菱の美頭炭・芦別炭	精版印刷會社	630×904	三菱鑛業株式会社 弘告社印
〔化粧品・薬品〕				
No.	資料名	印刷所	サイズ・点数	備考(制作年・原画者・広告主他)
048	藥生堂H.S線療院		788×550	弘告社印
049	ライオン歯磨愛用者娛樂大會	東京二葉印刷所	1083×385	
050	ライオン歯磨		914×622	函館市函館劇場
051	レート大演藝會		925×639	平尾贊平主催

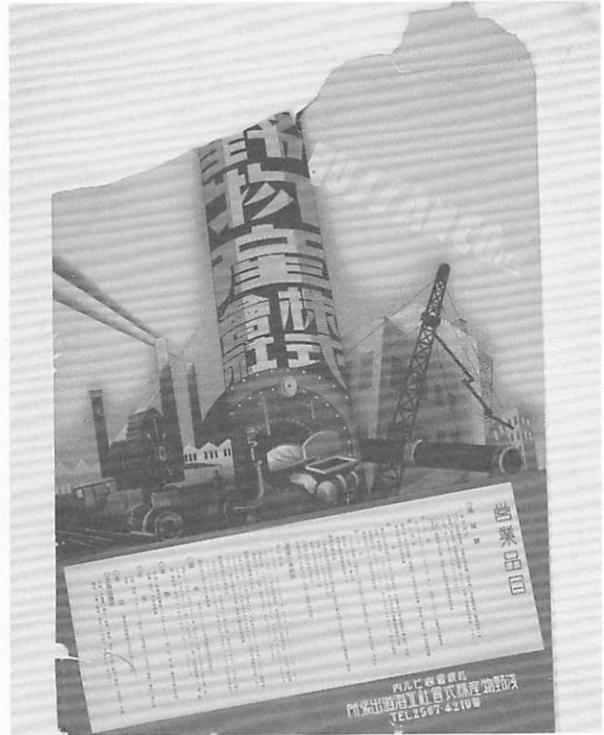


図2 北海道商業美術家協会のポスター



図3 部分

このポスターと同時期に道内で制作された昭和七年の「火の用心」(表2—218)、昭和十一年「お互に火の用心」(表2—219)と比較してみると、火の用心の二種は絵の空間に文字をはめ込んだ感がある。色合いも人目をひく鮮やかさには欠ける。一方、浅野物産のものは営業品目を記した長方形を底辺

として、中心に柱が立てられ、傾斜角を工夫して文字や建物を配した構成でまとめられている。背景の強い赤が濃厚な色合いの建物や列車、そして社名塔を浮き立たせている。配色や構成には格段の差がみられた。

彼らの活動そして作品に対する評価はあくまでも大半が展覧会の主催新聞社の紙面によるもので、評価は控えめに受け止めるべきと思う。しかしながら、北海道最初の商業美術家団体として、商業美術に対する周囲の認識を深め、新たな同好を含め八年間にわたって活動を続けたことから、道内少なくとも札幌・小樽においてはかなりの実力を備えた集団であったことは否定できないだろう。

今後は北海道の商業美術家の手になる作品の発掘と、各人の商業美術における分野と活動について調査を進めていくことを課題としたい。

最後に本稿をまとめるにあたって、函館市史編さん室、市立函館図書館、北海道立近代美術館、札幌芸術の森美術館、三越資料室、ポラ文化研究所、たばこと塩の博物館、大熊敏之氏、桑嶋洋一氏ほか多くの方々に御指導、御協力いただいたので、ここに記して御礼申し上げます。

(市立函館博物館学芸員)

連隊区司令部が加わったことも時局を色濃く反映している。協会からは協合理事の味戸、大坂ほか協会員数氏が審査にあたっていた。大坂はポスター懸賞等から見ても有力者であったようだ。「味戸」は昭和九年以降に加わったのだろう。

展覧会のほうは五月九日から札幌三越において開催された。会員制作、入選作品あわせて一〇〇点あまりの出品となったが、商業の活発化を目指す協会の方向とは異なった作品が同時に陳列され、次のような光景であった。「道廳並に北海道統計協會が特に商業美術家協會會員七氏に委嘱して製作せしめた國調ポスター九點及び軍部猷納の防諜ポスター等が各種産業ポスターの間に異色を見せてゐる」。展覧会は商業美術家協会のものでは初めて函館に巡回しているが、函館の各紙では取り上げられることはなかったようである。⁽²⁶⁾

昭和一四年にはもう一つ「銃後ポスター展」が八月二九日から同じく札幌三越で開催された。道庁および軍人援護会、札幌市銃後奉公会、全日本産業美術連盟等の主催であった。全日本産業美術連盟には前述のとおり北海道商業美術家協会が加盟している。出品作品は連盟会員の制作で三八〇点である。もはや産業ポスターの間だけではなく、全体が「國を護つた傷兵護れ」の標語など、軍事援護の趣旨を表現したポスターの内容であった。⁽²⁷⁾

この頃、展覧会は陸軍省後援のもと国民指導に積極的に活用されている。ポスターの流れも大きく変化し、国家のために役立つ人間像として、農業に従事する女性、素朴で健康的な少年やたくましく青年兵の姿などが盛んに描かれるようになった。

四、結びにかえて

今回の調査では昭和七年から昭和一四年までの活動を新聞で追い、多くの商業美術団体と同様に展覧会を中心とした活動をしていることが確認できた。『北海道大百科事典(上)』によれば「1941(昭和十六年)の「国策強調ポスター」展を最期に中絶した。」とされているので、活動の終期については今後引き続き調査したい。⁽²⁸⁾

さて、函館図書館所蔵のポスターに、北海道商業美術家協会制作のものが一点あることは最初に述べた。ポスターはかなり破損しているが、全体像は想像に難くない。画面左下には「北海道商業美術家協會印刷部」「ギシロウ」と印刷されている。広告主は「淺野物産株式會社」、昭和一一年の第五回「総合展」に参加商店として名を連ねている会社である。(図2、3参照)印刷所ではなく協会の名で制作していることから、協会の展覧会に出品された可能性がある。

裏面には鉛筆で「昭和九」という記述がある。このような記述はほか数点に見られ、年代は昭和九年から一三年と一時期に限られていたが、蒐集者の手元に渡った時期、あるいはポスターの整理が試みられた時に書かれたものと思われる。制作時期は協会設立の昭和七年から昭和九年の間に限られる。

原画については、「ギシロウ」というサイン、そして昭和九年時の会員から大坂儀四郎の制作と考えられる。大坂は、昭和七年に小樽塩野其水堂図案部の作品に「ギシロウ」とサインしたものを納品し、「其水堂圖案は拙劣である」からと弁明したため、其水堂から各紙に批判の広告を掲載されている。⁽²⁹⁾表1のように昭和一〇年ポスター当選でも「大坂ギシロウ」となっているので、この改竄のイメージを払拭するべくサインを変え、昭和九、一〇年頃は「ギシロウ」としていたのだろう。

しかし、対外的には新たな刺激を受ける出来事があった。

遡ること三年、昭和九年雑誌『廣告界』『商店界』が主催し、日米仏三方国、日本からは一三団体一三〇名を越える商業美術家団体が合同で「国際商業美術交驛展」を開催した。協賛した日本の団体名を連ねると、「実用版画美術協会、七人社、新図案協会、構図社、東京広告作家協会、(以上東京)商業美術連盟、日本ポスター研究会、ミヤタポスター研究会、大阪広告美術家協会(以上大阪)名古屋商業美術協会、神戸創作図案協会、小樽ポスター図案社」とある。ここに小樽から参加した団体があるのは実体は不明ながら非常に興味深く、今後、調査する必要がある。この展覧会は日本での会期終了後、翌年五月にはパリで日本商業美術展として紹介された。この企画によって、団体間のつながりが生まれ、同年七月関西では西日本商業連合が結成された。続いて東京でも一〇月全日本商業美術連盟東京支部が結成され、さらなる参加団体を迎えて昭和十一年一〇月一五日には全日本商業美術連盟は第一回総会を東京の神田教育会館で開いた。北海道商業美術家協会を含む二一団体が連盟を結んだのである。連盟は発足したもの、ほとんど事業展開する間もなく、戦時体制に呑まれ、昭和十三年には名称を全日本産業美術連盟と改め、宣言で掲げた「商業美術ノ進展、商業美術家ノ親和向上」とは違った様相を呈していくのである。⁽²⁴⁾

4、昭和一三、一四年 再興隆期と戦争の影響

昭和十三年の展覧会は二月九日から一四日まで札幌三越にて開催された。テーマは「冬季オリンピック」である。

満州事変、日中戦争と戦時体制が続く中で、東京オリンピック並びに札幌冬季オリンピックは久々にもたらされた明るい

話題であった。数ヶ月後にオリンピック中止の声を聞くまでの間、日本国中が沸き上がった。同年五月にはマークとポスターの全国公募が行われた。商業美術界からだけではなく、日本画・洋画の世界からも前田青邨、川端龍子、安井曾太郎、東郷青児らが審査員として顔を揃えたことは非常に意義深いことであった。

札幌が昭和一五年の冬季オリンピック開催予定地として国内で決定されたのを祝して、過去の展覧会活動で築き上げてきた成果をいかに発揮し、北海道商業美術家協会の活動も広がりを見せる絶好の機会であった。札幌の文化や産業を宣伝し、郷土札幌に還元するべく必然湧き起こってきた企画であった。テーマが非常に明確であり、地元札幌に密着した作品を表現することが、時事性と社会性を強く反映するという、会員にとっては格段制作しやすい状態であったのではなからうか。また、これまでの展覧会と同じように札幌の文化や産業を紹介しても、観る者には従来どおりの親しみと、同時に自分たちの街を「オリンピック開催地札幌」として客観的に見る新鮮さを感じさせることができる。展覧会は数年ぶりに注目を集め、評判は上々であった。

この年既に戦時色が強く、展覧会記事にも「銃後市民の一助の表れ」という表現が使われているが、戦地に赴かない商業美術家たちが展覧会を開くには、国家のために役立てる企画か否か、その内容が建前にせよ問われる時期が来ていたのではなからうか。⁽²⁵⁾

昭和一四年には協会創立七周年記念展「國策強諜ポスター展覧會」が開催されることとなった。先だって三月、「防諜報國」「健康報國」「貯蓄報國」のテーマ三種のポスターが募集された。テーマだけではなく、後援および審査に初めて札幌

いること、図案研究が充分でないことを挙げ、新鮮な構成とレイアウトを求めた。⁽¹⁸⁾

確かにかつて個々に交流をもたず制作していた頃に比べて門戸開放され、古參新參ともに参加を見、商業界に関わる人々に対流を起し、ポスターや新聞広告などの商業美術が独立して価値を認められるにはなった。多くの職人を図案家としての意識を覚醒させ、交流の場を与えたという意味では成功を取めたと言える。しかし、彼らが望んだ図案研究といった意味での交流や切磋琢磨までにはまだ発展していなかった。牧野は少し結果を急ぎすぎたためにその質の低さに失望したのだろう。そこには、自分たちの活動に対する自負と追隨する商業美術家を鼓舞する気持ちも十分に読み取れる。

第三回展は募集した作品の中から入賞、佳作作品二〇点あまりと会員の作品二〇点を出陳し、八月五日から八月八日まで札幌三越で開催され、その後小樽、旭川を巡回した。⁽¹⁹⁾

第四回展は昭和一〇年五月の段階では「総合展」とし、道内の有名商店および商品のポスター、チラシ、包装紙など、再び会員だけのあらゆる種類の商業美術の作品に戻って展覧会を開催する予定であった。ここでの新たな試みは印刷工程や立体物である飾窓の原画の過程を参考に陳列することであった。図案のみならず、図案と制作物をしてその過程、訴える効果を想定する図案創作法を提示し、前回の研究不足に対するひとつの対策を示すつもりであったのではないだろうか。⁽²⁰⁾

しかし、第四回「ポスター並に廣告寫眞新作發表會」は「北海道觀光展」と同時に八月一日幕を開けることとなった。会場もまた予定の三越から丸井今井呉服店に代わっていた。各地の景勝地を魅惑的に描いたポスター、広告写真約三〇点は好評であったが、北海タイムス社が引き伸ばした道内名勝地

の写真は二倍の六〇点あまりと重点が置かれ、迫力ある道内名勝地のパノラマに、人気が集めたようである。

このとき記事には協会員は「本道商業美術界の第一線に立つ新人のみで大部分は夙に中央圖案界に認められてる一流の作家で新鮮な作風は本道商業美術界に君臨してゐる」と、活動は浅いながら道内外で既に確固たる地位を築いた様子が伝えられる。⁽²¹⁾

3、昭和一一、一二年 安定期

昭和一一年道産選挙正ポスターの懸賞では、「北海道商業美術家協會の會員が一等から三等迄の入賞を占めて他府縣からの應募をノックアウトして凱歌を擧げてゐる」とあり、協会に対する評価の高さは會員個人の活動にも引き合いに出されるまでになっていた。⁽²²⁾

同年の第五回「総合展」は昭和一一年五月二四日から札幌三越で開催された。新聞では、展覧会の紹介よりも参加商店全店が紹介されているのが目立ち、従来どおりポスターと写真による広告美術が主であって、特に目新しさはなかったようである。⁽²³⁾

昭和一二年は現在のところ展覧会開催記事を見つけないことが出来なかった。昭和一三年以降の展覧会記事では「第何回」といった文句が出てこないことから、一時中断したことが考えられる。あるいは紙面を割くほどの内容ではないと判断されたとも考えられる。

この頃は協会に対する評価は不動のものとなっていた。活動は従来と変わらず、年一回展覧会を開くスタイルで続けられ、展覧会開催が目的と化しているようなどころがある。昭和一〇年から一二年はいわば安定期といった感がある。

あるとした。最後に、商業美術を「充分社會的重要性のある研究に多數の人が關心し、一方に傾くことから脱出し札幌のみならず全道的に研究品が發表され、全道都市の凡ゆる商業芸術の部門に活動し得る将来を樂み、大なる希望を持つものである」と結んでいる。

第二回は「札幌著名商店ポスター原畫展覧會」昭和八年八月一九日から二四日まで札幌三越で開催された。第一回展の際、指摘された問題点に対してむしろ抵抗するかのように、出品はポスターだけに限られている。広告主が札幌・小樽の著名商店に限られており出品数は少なかったが、「従来のポスター展とは異なり道産品其他のポスター原畫」であった点が高く評価されている。かつて道内で開催されたポスター展はいくつかあったが、道内で募集した作品だけで行われることはなく内地の各府県からの出品作が大半を占めている状態であった。道内の図案家による道内の商店および商品のポスター展はこれが初めてであったかもしれない。⁽¹⁵⁾

協会幹事の牧野七三郎は第三回展に当たって、過去二回の展覧會を振り返り、次のとおり高く自己評価している。「(第一回は)其社會的重要性を一般に最も深く認識せしめ、第二回は(中略)廣告主の商業美術に對する、確實なる認識と同時に、一般華客に對する廣告使命を果せる點同展は其の結果に於て本邦商業美術展覧會中の白眉と想ふ。⁽¹⁶⁾」

第一、二回展で共通して言えることは、会員、広告主、展覧會会場などの地域が札幌・小樽と限られており、地理的な広がりが見られないことである。出品に関しても、会員が制作したもののみであった。この時点では、まだ周囲を巻き込んでいくような活動ではなく、影響力もなかったと思われる。新聞紙面でも、満州事変下ということもあってか、さほど重

要視されてはいなかった。牧野の評価は、昭和九年に確実な手応えを得た後だからこそ言えた言葉であった。

2、昭和九、一〇年 新しい試み

第三回展になると、活動の内容は一転する。第三回展は昭和九年六月ポスターおよび新聞広告図案の募集から始まった。それは全道にとどまらず、全国の商業美術家および一般同好に呼びかけたものであった。「其成果は……期して待つべきものがある⁽¹⁷⁾」とした牧野の期待に違わず、応募総数ポスター一二〇〇点、新聞広告図案三〇〇〇点、予想をはるかに上回る反響であったようだ。前述の大正九年の募集と比較すると、その差は歴然である。牧野は審査所感として「如何に商業美術が社會一般的に大衆化され實用化され一個の立派な社會運動の一形態として發達せる事を立証せらる、譯である。」と数においては商業美術が一般の認識を充分に得た結果であると手放しに喜んでいる。しかし、質的にはどうであったろうか。牧野は量と質とを巧みに比較しながらこう述べている。「審査に當り最も感じた事は應募作品道内〇、九五、内地〇、〇五の比に對し其受賞者内地二人、道内四人ポスター新聞廣告を通じて一等入選者二名までも内地の作家に獲得された事は本道應募者諸君に對しなにかを暗示せるものと思ふ。」抑えた表現ではあるが、道内の商業美術家に対して何を言おうとしているのかは充分に伝わってくるであろう。さらに、新聞広告図案については「應募點數より見てかなりの期待を以つて審査に當つたが其のいづれもが日常新聞紙上にて發表せられて居る作品より以上に逸品の應募を見なかつた事はいささか期待を裏切れた感じである。」と齒に衣着せぬ感想を述べ、その原因を分析して、新聞広告に對する理解が不足して

鈴木眞一の門下となった写真師であった。明治三四年四月、忠次郎は久平を連れ富山県から札幌に移住し三春写真館を開業する。久平は父より写真術の伝習を受け写真師となった。昭和六年頃には札幌写真師会の会長を勤め斯界の向上発展に努力した。三春は商業美術家協会で活躍している期間も、写真展覧会を主催し、自らも多数出品している⁽¹⁰⁾。

小樽新聞上ではこのほか三人の名を確認した。挿絵画家として小原観嶺、松原繁美そしてネオン広告の宮原信吉である。小原の挿絵は、当時流行の叙情的な雰囲気醸し出しているもので、昭和七年の小樽新聞に数点掲載されていた。

松田は昭和六年から七年にかけて連載小説の挿絵を担当している。挿絵は表情に乏しく立体感に欠けていて稚拙に感じられるが、ほかにも子どもと家庭の欄などに細かなカット、コミカルな四コマ漫画などを担当し、状況に合わせてタッチを変えている。

昭和六年元日の小樽新聞で年始挨拶に代えて載せられた社員一覧に松田の名があることから、小樽新聞の専属であったため掲載頻度が高かったと考えられる。

もう一人、宮崎信吉は昭和六年記事で「ネオンサイン中の權威「クロード・ネオン」の製品を今度小樽駅前(11)の廣告研究社宮崎信吉氏が北海道樺太一円を一手に取扱ふ事になった」とあるので、この頃ネオン広告の会社を経営し、この分野では全道首位に立つ活躍をしていることがわかる⁽¹¹⁾。

各人が第一人者として各方面で活動していたことがわかるだろう。

また、昭和一二年の『廣告年鑑』には、「北海道商業美術家協会 札幌市南一條三越内」とあり、連絡先あるいは事務所は三越札幌支店内に置かれていた。北海道ではまだ認識され

ていない商業美術に対して、ポスターの懸賞および制作の魁である三越の姿勢を感じさせる。第一回展からほぼ札幌三越が会場であるのもこのためであろう⁽¹²⁾。

三、展覧会活動の軌跡

1、昭和七年から昭和八年 展覧会活動の始まり

第一回「商業美術展」は昭和七年九月二十五日から一〇月二日まで同年五月開店したばかりの三越札幌支店で開催された。その後一〇月四日から六日まで小樽丸井呉服店に巡回している。作品数は二〇〇余点、ポスター、飾り窓背景、新聞広告図案、小印刷図案、チラシ、包装紙図案、レッテルなどあらゆる種類の作品が出品された⁽¹³⁾。

本郷新が「商業美術展感想」を発表したことは、美術展として評価された証しであろう。本郷は協会結成と第一回展の開催を祝福すべきこととし、「一般道民の觀賞慾をそ、り、ひいては凡ゆる美術の部門に關心する様になること」に協会の使命があるとした。それ故に「大半を占むるのがポスターでありその他の作品は如何にも少なく振はないのは残念でもあり當事者の心すべきことである」と問題点を指摘し、「第二回展には他の種々なる方向へ充分力を注いで欲しい」としている。この点では、商業の発展を目指す協会とあらゆる美術への展開を望む本郷とは目的が異なっている。

商業美術は社会の需要を敏捷に捉え、万人に最も強く訴える方法で表現する。本郷はその結果、商業美術家が視覚的効果を求め単純化、構図などの類型化に陥ることへの危惧の念を表し、「如何なる藝術でも人にアッピールするものは個性的感情である」と敢えて声高に叫んでいる。そして、純正美術も商業美術もまた、時代の趨勢と個性の表現において密接で

予防宣伝図案、保健ポスター、そして昭和五年小樽新聞主催の広告図案並びに広告写真懸賞募集において、広告図案の部門で二人揃ってその実力を発揮しているのである。⁽⁹⁾

年代	懸賞名	氏名	所在
昭和五年	國産愛用ポスター	大坂儀四郎	小樽市
昭和五年	國産愛用ポスター	五十嵐義雄	小樽市
昭和五年	結核豫防宣傳圖案	大坂儀四郎	小樽市鹽野其水堂
昭和五年	小樽新聞新聞廣告	大坂儀四郎	小樽市
昭和五年	小樽新聞新聞廣告	大島 正	小樽市
昭和五年	小樽新聞新聞廣告	五十嵐義雄	札幌市
昭和五年	小樽新聞新聞廣告	澁田耕平	札幌市
昭和五年	小樽新聞寫眞廣告	三春久平	札幌市
昭和五年	保健ポスター(本道當選)	大坂儀四郎	小樽市鹽野其水堂
昭和五年	保健ポスター(本道當選)	五十嵐義雄	小樽市鹽野其水堂
昭和七年	牛乳推奨標語ポスター	大坂儀四郎	札幌市北海石版所
昭和七年	牛乳推奨標語ポスター	五十嵐義雄	札幌市北海石版所
昭和七年	小麦増殖宣傳ポスター	五十嵐ヨシヲ	札幌市北海石版所
昭和七年	小麦増殖宣傳ポスター	大坂儀四郎	札幌市北海石版所
昭和七年	小麦増殖宣傳ポスター	吉田十一郎	札幌市三田印刷所
昭和八年	結核豫防ポスター	五十嵐ヨシヲ	札幌市北海石版所
昭和一〇年	選舉肅正ポスター	大坂ギシロウ	札幌市工藝社
昭和一年	道産選舉肅正ポスター	大坂儀四郎	
昭和一年	道産選舉肅正ポスター	増田(会員)	
昭和一年	道産選舉肅正ポスター	不詳(会員)	
昭和一四年	防諜ポスター	松田繁美	小樽市

表1 ポスター懸賞当選者一覧

また、表1から印刷所を追っていくと、大坂と五十嵐は協会結成以前少なくとも昭和五年まで二人とも小樽の同じ印刷所に所属している。昭和六年の動きはつかめなかったが、協会として展覧会活動が始まる昭和七年には札幌の北海印刷所に二人揃って移ってきている。結成に向けて昭和六年頃、札幌以外の地域の商業美術家たちは札幌に集結するような動き

があった、若しくは、札幌に有力なメンバーが揃ってきたことが結成の端緒を發していったと考えられる。

小樽新聞の懸賞では、ほかに図案の部で大島正が三等に、澁田耕平が五等、写真の部で三春久平が三等、佳作に入選している。彼ら三人はいずれも札幌で活動していた。

この入選者の中に後の会員が五名も含まれているのは興味深い。ここに協会結成の伏線があるのだろうか。

(図1参照。『小樽新聞懸賞募集廣告圖案・寫眞選集』市立函館図書館蔵より転載)



図1 小樽新聞懸賞入選作品

この中で三春久平については、特に写真史において名を知られる存在であり、唯一履歴が明らかなので紹介したい。養父忠次郎は下岡蓮杖について写真術を学び、後に東京の

に對して、期限日時点では約五〇〇点の出品申込みがあった。しかし、出品作品の大半が内地物であるため、出品申込期限および現品受付期限は延期された。主催者は、「本道各地の人々には此學に對する理解を缺いて居る點が尠なく無い」として、道内各地（小樽、函館、留萌、空知、旭川、釧路、室蘭など）に Outreach、出品を勧誘してまわったのである。このような努力もむなしく反応は次のとおりであった。「各地に於ける斯業者は従来の製品で需要に追はれ従つて発明等の余地が無い使用者側です従来の器具に満足して居る、包紙等は古新聞紙、古雑誌、廣告等を利用しポスターは洋紙に赤インク杯で書き散らし印刷物を用ふる様な趣は更に無い結局需要者も併給者も發明品ポスターレットルに關して至極冷淡である⁽³⁾」。

また、大正一二年には札幌警察署主催で火防衛生交通宣伝ポスター展が開催され、各府県からと道内で募集したポスター数百枚が出品された。連日紙面を飾ったポスター展の記事であったが、「展覽會そのものよりも各種の餘興で祭禮以上の賑ひ⁽⁴⁾」で、話題を呼んだのはむしろ数々の催し物であった。当のポスターについては、「普通の日本畫或は油畫などと異りたる別種の繪畫」に對して、「何れも構圖の妙彩色の優秀なる⁽⁴⁾」様子として関心は低いながらもある程度の評価が得られた。

中央では凶案家個人が意識を持ち、団体活動へと拡大していく頃、北海道には凶案家にも観る側にもまだ変化が訪れていなかった。

2、会員個人の活動

結成の時期については、牧野七三郎が昭和九年「三年前呱呱の聲を擧げた北海道商業美術家協會の設立」と述べており、新聞では昭和一三年を「丁度誕生七周年」、昭和一四年を「創

立七周年」としているので、昭和六年に何らかの動きがあり、「北海道の商業美術を大阪、名古屋、東京の如く商業都市としての商業美術の發達の過程を逆に商業美術による商業の發展なる理想の下に會員が結束⁽⁵⁾」したものと思われる。そして、昭和七年第一回展の運びとなる。

彼ら自身は結成を「遅き感はある⁽⁶⁾」という。また、一般に「北海道は中央と比較して10年くらいの開きがあった⁽⁷⁾」とされる。しかしながら、大正末期の七人社と商業美術家協会を第一陣とするならば、追隨する昭和初期の団体結成の流れの真つ直中で北海道商業美術家協会はその産声をあげている。時代とともに移り変わるサイクルの速い商業美術の世界では、中央の動きに敏捷に反応する体制が備わっていたためだろう。

結成時の会員数ははっきりしないが、昭和七年第一回展においては札幌・小樽を中心とした「二十五名」であった。また昭和一〇年では「十五名」、昭和一三年では「十九名」と数には変動がみられるが、現在のところ名前が確認できるのは昭和九年のみである。記事によれば会員は、

澁田耕平、吉田十一郎、及川喜代太、佐藤修一、佐藤正男、宍戸吉郎、名達修治、宮崎信吉、東政二、三春久平、宮古芳雄、西澤文雄、大丸誠之、五十嵐義雄、大島正、小原觀嶺、村木更牛、山本元峰、松田繁美、大坂儀四郎、牧野七三郎の二一名である⁽⁸⁾。

右の会員について、ポスターなどの懸賞当選者を中心に各人の活動を追ってみた。

表1に見られるとおり、昭和五年、後の会員五十嵐義雄と大坂儀四郎とともに小樽塩野其水堂という印刷所に所属しており、同じポスターの懸賞に競い合うように応募し、当選を果たしている。昭和五年だけでも、国産愛用ポスター、結核

北海道商業美術家協会の活動について

霜村 紀子

一、はじめに

大正一三年、ヨーロッパ留学を終え帰国した杉浦非水は創作図案研究団体「七人社」を結成し、大正一五年、第一回創作ポスター展覧会を日本橋三越で開催した。同年、浜田増治、多田北鳥らを中心とした「商業美術家協会」が結成された。

この協会の大半は、大正一五年三月創刊された雑誌『廣告界』のために招かれ機縁を得たのであった。この二つの団体はそれぞれほぼ毎年展覧会を開催し、『アフィッシュ』『商業美術』という雑誌を発行するなど積極的に活動した。彼らの活動は日本各地に波及し、「大阪商業美術家協会、長崎商業美術協会、盛岡商業美術協会、仙台商業美術家協会、岩手商業美術協会、広島商業美術家協会など」⁽¹⁾が次々と結成された。

勿論北海道にもこの流れは伝わり、「北海道商業美術家協会」が結成されたのである。しかし、その活動内容については商業美術のうえでは「地方の団体については、具体的に述べる資料に乏しい」とされ、北海道の美術史でもこれまでほとんど触れられることがなかった。全国的にも、いわゆる図案家に光が当てられてきたのはここ数年であるが、平成六年には東京では杉浦非水展、北海道でも栗谷川健一展が開かれ話題を呼んだ。

今回、市立函館図書館所蔵のポスターの一部三〇七点を実測したところ、大部分が東京・大阪の印刷所で制作されたものであり、北海道で制作されたと確認できるのは一九点のみであった。明治大正期はほぼ道外制作のものが流入しており、道内制作で年代がわかるものはすべて昭和であった。このことから、昭和初期から北海道内で商業美術活動が起こってきたのではないかと考えられた。(表2参照)

その中に北海道商業美術家協会で作されたものが一点見受けられた。北海道商業美術家協会については、作品の保存性が低く、活動内容も明らかではないが、北海道内の新聞記事を基にして北海道商業美術の魁であるこの団体の活動を追い、このポスターについて考えてみたい。

二、結成に向けて

1、北海道の商業美術周辺

中央で商業美術家団体が活動し始めた前と後、それぞれの時期に北海道の商業美術界の様子が伝わってくる記事があるので紹介したい。

まず大正九年、北海道物産陳列場で開催する展覧会のため発明品、ポスター、レットルの募集が行われた。この募集

市立函館博物館 研究紀要 第6号

1996年3月31日 発行

編集・発行 市立函館博物館
〒040 函館市青柳町17-1 (函館公園内)
TEL 0138-23-5480 FAX 0138-23-0831

印刷 (株)長門出版社印刷部
〒040 函館市日の出町11-13
TEL 0138-52-2461 FAX 0138-53-2340

BULLETIN
OF
HAKODATE CITY MUSEUM

NO. 6

CONTENTS

Preface

NORIO SATO, TAKAHISA IGARASHI :

Bone and Shell artifact of "Notogawa Collections"
from the Esan Shell-midden.

NORIKO SHIMOMURA : A Brief History of Hokkaido Commercial
Artists Association.

1 9 9 6

Publisher : Hakodate City Museum

17-1, Aoyagicho, Hakodate City, Hokkaido 040, Japan

Tel 0138-23-5480 Fax 0138-23-0831